

令和7年度(令和6年度実績事業)

下田市教育委員会自己点検・評価報告書

令和8年1月

下田市教育委員会

目 次

はじめに	・・・・・・・・・・	1
教育委員会点検・評価の概要		
1 点検・評価の趣旨	・・・・・・・・・・	2
2 教育委員会会議の開催状況	・・・・・・・・・・	3
3 教育委員会会議の審議状況	・・・・・・・・・・	3～5
4 教育委員会会議以外の活動状況	・・・・・・・・・・	5～6
5 施策ごとの取組状況	・・・・・・・・・・	6～8
点検・評価シート	・・・・・・・・・・	9～47
6 有識者委員会	・・・・・・・・・・	48
7 有識者委員会の意見	・・・・・・・・・・	48～54
8 下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会設置要綱	・・・・・・・・・・	55

はじめに

下田市教育委員会の自己点検・評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業について1年間の活動状況の課題や取組の方向性を、自ら点検及び評価を行い、有識者による外部の知見を入れることで、今後の効果的な教育行政の一層の推進を図るものです。

本報告書の作成に当たっては、点検・評価の客観性を確保するために、下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会から点検・評価の内容及び手法に対するご意見をお聞きしました。

この点検・評価の結果を今後の施策に十分に反映させることで、本市の教育施策が適切、円滑に推進できるよう取組の強化を図ってまいります。

下 田 市 教 育 委 員 会

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

下田市教育委員会名簿

（令和6年度当初 在籍委員）

職 名	氏 名
教 育 長	山 田 貞 己
教 育 長 職 務 代 理 者	西 堀 政 幸
委 員	佐 藤 知 佐 子
委 員	宮 内 慎 也
委 員	西 川 紀 栄

教育委員会点検・評価の概要

1 点検・評価の趣旨

(1) 点検・評価の目的

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、毎年事務の管理及び執行状況について、学識経験を有する者の知見の活用を図り、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告するとともに、市民に公表しています。

この自己点検・評価は、教育委員会の責任体制の明確化と教育行政の説明責任を果たすことを目的としています。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価にあたっては、令和6年度に実施した事務事業について、令和3年4月から令和8年3月までの5年間を対象期間とする下田市教育大綱で掲げる本市教育の基本理念『下田に誇りをもち、未来を切り拓く志をもった人』を目指し、その実現のための6つの取組である「下田を感じる、味わう、好きになる取組」、「未来について思考する取組」、「居場所づくりに向けた取組」、「資質・能力を育成する取組」、「健やかな心身を育成する取組」及び「教育政策推進のための基盤整備に向けた取組」に分類して、点検・評価の対象としました。

(3) 点検・評価の方法

点検・評価については、施策、事業の執行状況を明らかにするとともに、課題等を分析検討した上で、今後の対応方向を記述しました。

事業は、点検・評価シートに基づき点検・評価を行い、教育委員の評価として

- | | |
|---|----------------|
| S | 「確実な成果を出している。」 |
| A | 「一定の成果を出している。」 |
| B | 「やや成果が低い。」 |
| C | 「成果が低い。」 |

のいずれかの評価とその評価に基づくコメントを記載しました。

また、点検・評価の客観性の確保のため、教育に関し学識経験を有する方等、外部の意見をお聞きするため、外部評価委員会を開催しました。

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会では、毎月 20 日以降を目処に月 1 回の定例会を開催する計画を立て、必要に応じて臨時会を開催しています。

令和 6 年度は、12 回（定例会 12 回）会議を開催しました。

定 例 会	臨 時 会	合 計
12 回	0 回	12 回

3 教育委員会会議の審議状況

地教行法第 21 条及び下田市教育委員会会議規則（平成 27 年下田市教育委員会規則第 2 号）に基づき、令和 6 年度は 34 件の議案を審議しました。

区 分	番 号	議 案 名
4 月定例会 4 月 25 日（木）	報第 1 号	専決処分の承認を求めることについて （社会教育指導員の任命について）
	報第 2 号	専決処分の承認を求めることについて （下田市立青少年の家所長の任命について）
	報第 3 号	専決処分の承認を求めることについて （下田市青少年補導センター所長の任命について）
	報第 4 号	専決処分の承認を求めることについて （下田市公民館長の任命について）
	報第 5 号	専決処分の承認を求めることについて （下田市立図書館長の任命について）
	報第 6 号	専決処分の承認を求めることについて （下田市社会教育委員の委嘱について）
	報第 7 号	専決処分の承認を求めることについて （下田市青少年補導センター補導員の委嘱について）
	報第 8 号	専決処分の承認を求めることについて （下田市公民館運営審議会委員の委嘱について）
	報第 9 号	専決処分の承認を求めることについて （下田市スポーツ推進委員の委嘱について）
	報第 10 号	専決処分の承認を求めることについて （下田市地域学校協働活動推進委員の委嘱について）
	報第 11 号	専決処分の承認を求めることについて （下田市学校運営協議会委員の任命について）
	議第 17 号	下田市学校給食調理配送業務委託事業者選定委員会設置要綱の一部を改正する告示の制定について
	議第 18 号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について
5 月定例会 5 月 23 日（木）	議第 19 号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （令和 6 年度下田市一般会計補正予算（第 3 号） 教育委員会）
	議第 20 号	下田市学校給食運営協議会委員の委嘱について

6月定例会 6月21日（金）	議第21号 議第22号	下田市立公民館整備庁内検討会議設置要綱の制定について 要保護及び準要保護児童生徒の認定について
7月定例会 7月26日（金）	報第12号 議第23号 議第24号 議第25号	専決処分の承認を求めることについて （下田市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱の制定について） 令和7～10年度使用中学校教科用図書の採択について 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （令和6年度下田市一般会計補正予算（第5号） 教育委員会） 要保護及び準要保護児童生徒の認定について
8月定例会 8月27日（火）	報第13号 議第26号 議第27号 議第28号	専決処分の承認を求めることについて （下田市教育委員会事務局職員の人事について） 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （下田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について） 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （下田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について） 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （令和6年度下田市一般会計補正予算（第6号） 教育委員会）
9月定例会 9月27日（金）	報第14号 議第29号	専決処分の承認を求めることについて （下田市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について） 下田市教育委員会事務局職員の人事について
10月定例会 10月29日（火）	報第15号	専決処分の承認を求めることについて （下田市いじめ問題対策専門委員会委員の委嘱について）
11月定例会 11月25日（月）	議第30号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （令和6年度下田市一般会計補正予算（第8号） 教育委員会）
12月定例会 12月25日（水）		議事なし
1月定例会 1月28日（火）	報第1号 報第2号 議第1号	専決処分の承認を求めることについて （下田市いじめ問題対策専門委員会委員の委嘱について） 専決処分の承認を求めることについて （令和6年度下田市一般会計補正予算（第10号） 教育委員会） 令和7年度下田市立小・中学校教職員の人事異動の基本方針について
2月定例会 2月26日（水）	議第2号 議第3号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （下田市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について） 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について （下田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例及び下田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について）

	議第4号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について)
	議第5号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (令和6年度下田市一般会計補正予算(第11号) 教育委員会)
	議第6号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (令和7年度下田市一般会計予算 教育委員会)
	議第7号	静岡県費負担教職員人事の内申について
	議第8号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について
3月定例会 3月24日(月)	議第9号	下田市教育委員会事務局職員の人事異動について
	議第10号	下田市学校給食費に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	議第11号	下田市スポーツコミッション設置要綱の制定について
	議第12号	自家用車の公務使用に関する要綱の一部を改正する告示の制定について
	議第13号	下田市特別支援教育就学奨励費交付要綱の一部を改正する告示の制定について
	議第14号	下田市立小中学校グローバルCITYプロジェクト事業補助金交付要綱の一部を改正する告示の制定について
	議第15号	下田市英語検定受検推進補助金交付要綱の一部を改正する告示の制定について
	議第16号	下田市スポーツ大会等誘致推進事業補助金交付要綱の一部を改正する告示の制定について
	議第17号	下田市スポーツ合宿等誘致補助金交付要綱の一部を改正する告示の制定について
	議第18号	下田市立学校処務規程の一部を改正する訓令の制定について
	議第19号	下田市学校教育の基本方針について
	議第20号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について

○議案審議の内訳

内 容	件 数
基本方針	2件
議案の原案の決定	11件
規則及び規程等の制定又は改廃	12件
人事	19件
要保護及び準要保護児童生徒の認定	5件
その他	2件
合 計	51件

4 教育委員会会議以外の活動状況

(1) 教育委員会点検評価有識者委員会

開 催 日	場 所
11月8日(金)	下田市立中央公民館 大会議室

(2) 下田市総合教育会議

開催日	場所
令和6年8月27日(火)	下田市立中央公民館 大会議室
令和7年2月26日(水)	下田市立中央公民館 大会議室

(3) その他

開催日	内容
令和6年4月8日(月)	市内小中学校入学式
令和6年10月29日(火)	教育委員学校訪問
令和7年3月4日(火)	下田市教育委員会教育奨励賞授与式

5 施策ごとの取組状況

教育委員会では、目標を実現させるための取組に対応する事業について点検・評価シートを作成し、内部で点検・評価を行い、その後外部評価をいただき、意見をまとめました。

◇下田を感じる、味わう、好きになる取組

目標実現のための取組		事業等	Page
「自然、歴史、文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます」	下田の豊かな自然（海、山、川、ジオ）を体験する活動を通して学びます	体験プログラム事業	9
		青少年健全育成事業	10
		スポーツ推進事業	
	下田の豊かな資源（文化、歴史、伝統）の探究を通して学びます	成人活動推進事業	11
		公民館活動推進事業	12
		芸術文化振興事業	
	開国のまちの特色を生かして国際的なコミュニケーション能力を身に付けます	市史編さん事業	13
		芸術文化振興事業	
		英語力向上推進プロジェクト事業 英語検定受検推進事業 ALT（外国語指導助手）配置	14

◇未来について思考する取組

目標実現のための取組		事業等	Page
自分の将来や地域の未来について思考する素地を養います	夢を思い描き、自分の生き方や下田の未来について考え、アクションを起こします	未来の下田創造プロジェクト 小学校の在り方検討会議	15
		青少年活動推進事業	16
	下田内外の職場や働く人の生き方から学びます	地域人材活用 総合的な学習の時間	17

◇居場所づくりに向けた取組

目標実現のための取組		事業等	Page
安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	公立保育所・認定こども園・民間保育所事業	18
		放課後児童対策事業	19
		地域子育て支援センター運営事業	20
		ファミリーサポートセンター事業	
		子ども・子育て支援事業	
		子ども子育て会議	21
		児童生徒適応指導事業	22
		特別支援教育体制推進事業	
		児童・生徒援護事業	23
安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	不登校等対策連絡協議会	24
		いじめ防止への対応	
		生徒指導研修会	
		人権教育	
	命を大切に、安全かつ安心して生活できる環境づくりを目指します	学校公開・学校評価	25
		青少年健全育成事業	26
		通学路安全対策事業	27
	命を大切に、安全かつ安心して生活できる環境づくりを目指します	児童・生徒通学費補助事業	28
		中学生自転車安全対策	
	防災教育を通して、命を守るために自ら考え、人のためにも行動できる人を目指します	地域と連携した防災・防犯教育	29

◇資質・能力を育成する取組

目標実現のための取組		事業等	Page
自分や地域の未来を切り拓くことができる資質・能力を伸ばします	実際の社会や生活で生きて働く知識や技能を身に付けます	市指定研究校への支援	30
	未知の状況にも対応できる、思考力、判断力、表現力などを身に付けます	研修主任研修の開催	
	学んだことを人生や社会に生かそうとする力を身に付けます	校内研修への支援	31
		教育資金利子補給事業	
		奨学奨励費交付事業	32
		授業づくり支援	
		初任者研修会の開催	

◇健やかな心身を育成する取組

目標実現のための取組		事業等	Page
生涯を通じて充実した人生を送るために、健	健やかな心身を支える健康な体づくりを目指します	小中学校児童生徒対外派遣費補助金	33
		部活動指導員配置事業	

やかな心身と豊かな感性を育みます		学校給食管理運営事業	34
		学校体育施設開放事業	35
		スポーツ推進事業	
		下田市民スポーツセンター管理運営事業	36
		吉佐美運動公園管理運営事業	
	道徳教育や読書活動の充実を図り豊かな心の育成を目指します	スポーツ推進事業	37
		道徳教育の充実	38
		学校司書の配置・新刊図書の購入	39
		学校図書館蔵書管理システム導入の拡大	
		図書館管理運営事業	40

◆教育政策推進のための基盤整備に向けた取組

目標実現のための取組		事業等	Page
5つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組めます	人材育成に向けた学びの機会や質を保障する教育予算の拡充	小・中学校管理事業	41
	I C T、ネット環境に関する基盤整備	G I G Aスクール構想の推進 小・中学校教育振興事業 賀茂地域校務事務共同化協議会	42
	子どもの安心安全の確保と、多様なニーズに対応するセーフティーネットの構築	スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置、関係機関との連携	43
	生涯にわたって学び続けることができる施設・環境の整備	青少年海の家管理運営事業	44
		下田市民文化会館管理運営事業	45
		公民館管理運営事業	46
		図書館管理運営事業	47

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	取組1 下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然、歴史、文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○下田の豊かな自然（海、山、川、ジオ）を体験する活動を通して学びます	
事業等	体験プログラム事業	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【グローバルCITYプロジェクト事業補助金：4,245千円】		
	稲梓小	稲作体験、海の宿泊体験、鮎の友釣り体験、ウナギもじり体験、椎茸菌打ち体験、おかざり作り 等	
	稲生沢小	海の宿泊体験、下田海中水族館見学、シーカヤック体験、陶芸体験、町探検（サスケハナ号、寝姿山） 等	
	白浜小	宿泊体験、サーフィン教室、下田歴史学習、バスや電車に乗ろう、陶芸を楽しもう、上智学交流 等	
	浜崎小	宿泊体験、海の生き物に触れよう、スノーケリング体験、理科実験教室IN浜崎小学校、干物作り体験 等	
	下田小	宿泊体験、伊豆下田ジオサイト巡り、トリックアートとカメラと一緒に黒船来航のルートを巡ろう！ 等	
	大賀茂小	全校稲作体験、お飾り作り、下田町探検、海の宿泊体験学習、ジオ学習、パン作り 等	
	朝日小	季節を楽しもう（寝姿山探検）、農家体験（苺収穫・販売）、SUP体験、ひもの開き体験 等	
	下田中	海の体験、職人さんから学ぶものづくり体験、職場体験、アイデアづくりの方法を学ぼう 等	
検証	下田の豊かな自然、歴史、文化を感じるにより、下田を好きになる取組として、体験プログラム事業を実施した。地域の体験を通じてたくさんの感動が生まれるとともに、児童生徒一人ひとりの豊かな感性を育むことにつながった。各校が地域の特性を生かした体験事業を展開し、児童生徒の郷土への理解促進、郷土愛の育成にもつなげた。 全校合計で88回の事業を実施することができた。		
今後の課題 方向性	教育大綱に掲げる重要な取組の一つとして、地域学校協働活動推進員の協力も得ながら、地域人材の育成も踏まえ、事業の継続を推進する。		
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組1 下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然、歴史、文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○下田の豊かな自然（海、山、川、ジオ）を体験する活動を通して学びます	
事 業 等	青少年健全育成事業 スポーツ推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【講座開催状況】		
	開催日	講座名	参加者
	8月24日（土）	親子漁船釣り教室	24名（親子・小学生）
	12月7日（土）	東京大学樹芸研究部講座 ～チョコレートづくりを体験しよう～	19名（親子・小学生）
	【地域おこし協力隊】 アウトドアスポーツの振興による地域活性化を目指すため、ライフセービングやオープンウォータースイミング等の大会・合宿誘致をはじめ、下田中学校サーフィン部の活動支援、市民向けトレーニング教室等を実施した。 ・地域おこし協力隊員報償費 3,702千円 ・地域おこし協力隊支援業務委託 1,500千円		
検 証	身近にある恵まれた自然環境と地域の特性を活かした体験的な講座として、漁船釣り教室とチョコレートづくり教室の二教室を実施した。 地域おこし協力隊は、アウトドアスポーツ大会・合宿の誘致を推進することで、市外から人を呼び込み、地域活性化を図るとともに、部活動支援等を通じ、市民のためのスポーツ振興にも貢献した。		
今後の課題 方 向 性	自然体験活動については、観光協会等他団体が実施する事業との差別化を図るとともに、単発的なイベントではなく、年間を通じたテーマ性のある講座開設を検討する。 地域おこし協力隊は令和6年度を持って任期満了となったが、今後は「下田市スポーツ推進計画」及び「下田市 SURF CITY 構想」に基づき、地域資源である自然環境を活かした、サーフィンを始めとするマリンスポーツの普及を推進し、健康増進のみならず、郷土愛の醸成を目指していく。		
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	A 一定の成果を出している C 成果が低い	
評価に対する コ メ ン ト	今後も、下田における自然環境を活かした体験活動の充実を図っていきたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組1 下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然、歴史、文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○下田の豊かな資源（文化、歴史、伝統）の探求を通して学びます	
事 業 等	成人活動推進事業 公民館活動推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【各種学級の開設】					
	名 称		対 象	延人員	内 容	
	寿 大 学		高齢者	501	教養講座、健康講座、安全講座（11回）	
	家 庭 教 育 学 級		保護者	928	8学級、親の役割と青少年の育成等	
	水 産 ・ 海 洋 学 講 座		中学生以上	104	県・大学の研究機関等による市民講座（4回）	
	【公民館講座】					
	開催日		講座名	対 象	参加者	内容
検 証	6 月 26 日（土）		親子和菓子作り教室	小学生と保護者	24	和菓子作り
	10 月 6 日（日）		親子和菓子作り教室	小学生と保護者	18	和菓子作り
	・ 家庭教育学級委託 125千円 ・ 公民館講座講師謝礼 50千円					
今後の課題 方向性	高齢者を対象とした寿大学（11 回実施）を開設した。寿大学は高齢者の交流の場としても機能しており、楽しみにされている方も多い。 水産海洋学講座は、市内研究機関等を講師に招き、幅広い世代に対し、市の財産である海の知識を学ぶ機会を創出した。 公民館講座は、地域資源を活かした講座を企画し、子どもたちをメインに、市民の生涯学習活動の推進につながっている。 小中学校 P T A に家庭教育学級の実施を委託し、各学級ごとの課題に対応した事業が実施され、家庭教育力の向上につながった。また、各学級の代表者を対象とした研修会を開催し、各学級の事業が充実するように努めた。					
	各種事業・講座については、一部内容の重複が見受けられるため、内容を精査するとともに、効率的な実施体制の構築が必要である。 郷土に関わる民間主催の講演会など、市民の生涯学習の推進につながる事業は、積極的に後援し、又は支援する。					
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い		A 一定の成果を出している C 成果が低い			
評価に対する コメント	継続して受講する高齢者が多い講座は、楽しみや健康にもつながるような内容の充実を図り、幅広い世代を対象とした、下田の魅力を再発見できるような新たな事業を検討し、生涯学習の場の充実を図っていきたい。					

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組1 下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然、歴史、文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○下田の豊かな資源（文化、歴史、伝統）の探求を通して学びます	
事 業 等	芸術文化振興事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【芸術祭開催状況】			
	事業		内 容	
	第69回 下田市芸術祭		会 期：前期 11月8日～10日 後期 11月15日～17日 会 場：下田市民文化会館 展示部門出展数：100点 舞台部門団体数：27 入場者数：1,618人	
	【まどが浜文化イベント「Sea&Rainbow We are Shimoda Kids」開催状況】 子どもたちの文化活動等の発表ができる場を創出するため、まどが浜海遊公園を活用した文化イベントを10月26日(土)に開催した。ステージ発表7団体、PRブース参加14団体、延べ800人の来場者があった。			
	【教育委員会連続講座「南豆の歴史を後世に」開催状況】			
	開催日	演 題	講 師	参加者数
	11月19日 (火)	伊豆三島神と笑止について	外岡 龍二	40名
	11月26日 (火)	古代伊豆の仏教文化 ～伊豆南部を中心に～	田島 整	42名
	12月10日 (火)	県内唯一の繁殖地『神子元島』 のカムリウミスズメ	手嶋 洋子	31名
	12月18日 (水)	安政5年仏使節団下田滞在記	高橋 廣明	38名
検 証	芸術祭への支援を通じ、市民の文化・芸術活動の促進を図った。 まどが浜海遊公園にてまどが浜文化イベント「Sea&Rainbow」を開催し、子どもたちの文化活動等の発表・体験の場を創出した。 連続講座「南豆の歴史を後世に」を開催し、地元研究者を中心とした専門性の高い講座内容を提供することで、市民の余暇活動の充実を図った。			
今後の課題 方 向 性	まどが浜文化イベントは、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、コロナ禍により失われた子ども達の発表の場の確保という当初の目的を達成したため、本年度を持って終了とした。今後は、芸術祭をはじめとする、市民による文化・芸術活動への支援を強化し、若い世代にも活動が広がるように努めたい。			
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い		A 一定の成果を出している C 成果が低い	
評価に対する コ メ ン ト	芸術祭をはじめとする市民の活動への支援を通じて、芸術・文化の振興を図りたい。			

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組1 下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然、歴史、文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○下田の豊かな資源（文化、歴史、伝統）の探求を通して学びます	
事 業 等	市史編さん事業 芸術文化振興事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【市史編さん】</p> <p>『資料編四 近現代』、『通史編（上） 考古・古代・中世』、『通史編（下） 近現代・近世』の刊行に向け、資料収集、資料調査、原稿作成等を行っている。</p> <p>・報償費（市史編さん委員の調査活動等謝金） 3,890 千円</p> <p>【文化財等の保存と活用】</p> <p>国指定史跡である玉泉寺のロシア人墓地踊り場改修工事に文化財保護事業補助金 834 千円を支出し、文化財の保護を図った。（負担割合…国 1/2、所有者・県・市 1/6）</p> <p>県指定文化財である吉田松陰寓寄処を保全し、管理するとともに、一般開放を行った。（R6 入館者数：2,162 人）</p> <p>【グローバル推進事業】</p> <p>吉田松陰関係史跡巡りイベント「しょういん探検隊」の開催</p> <p>下田ゆかりの幕末志士吉田松陰に関する史跡・場所を巡ることにより、市内児童の郷土の歴史に対する関心を高めてもらうことを目的として12月14日（日）に実施し、親子等で4名が参加した。</p>		
検 証	<p>刊行予定の書籍の資料収集、資料調査や執筆の進捗状況について市史編さん委員と打合せを行いながら、刊行に向けた原稿作成等を行った。</p> <p>補助事業や日頃の管理を通じて、文化財の適切な保護に努めた。</p> <p>グローバルCITYプロジェクトによる地域学習の推進に努めた。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	<p>市史編さんについては、通史編の早期刊行を目指す。</p> <p>吉田松陰寓寄処については、PRやイベント開催を通し、入館者の増加に努める。</p> <p>グローバルCITYプロジェクトである「しょういん探検隊」はインフルエンザ流行の影響もあり、少人数での実施となってしまった。内容の見直しも含めて、今後の地域学習の在り方について精査したい。</p>		
教 育 委 員 会 評 価	<p>S 確実な成果を出している A 一定の成果を出している</p> <p>B やや成果が低い C 成果が低い</p>		
評価に対する コ メ ン ト	<p>通史編の早期刊行に努める。</p> <p>吉田松陰寓寄処及び文化財の計画的な維持管理及び活用を図っていきたい。</p> <p>グローバルCITYプロジェクトとして地域学習の充実させていきたい。</p>		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組1 下田を感じる、味わう、好きになる取組		
	◇自然、歴史、文化をフィールドとした体験を通して豊かな感性を育み、表現力を磨きます	○開国のまちの特色を生かして国際的なコミュニケーション能力を身に付けます	
事 業 等	英語力向上推進プロジェクト事業 英語検定受検推進事業 A L T（外国語指導助手）配置	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【英語力向上プロジェクト事業：780 千円】 玉川大学との連携事業、学生を招き小学校において英語の授業を実施 春の交流：下田小 秋の交流：稲梓小、大賀茂小 【英語検定受検推進事業：1,239 千円】 児童 49 人、生徒 253 人、計 302 人に英語検定受検料を全額補助 ＜補助内訳＞ ()は合格者数 (単位：人)						
	受検級	児童受検者		生徒受検者		受検者計	
		R 5	R 6	R 5	R 6	R 5	R 6
	1 級	0	0	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
	準 1 級	0	0	2 (2)	2 (1)	2 (2)	2 (1)
	2 級	0	1 (1)	8 (3)	7 (2)	8 (3)	8 (3)
	準 2 級	0	0	28(12)	41(21)	28(12)	41(21)
	3 級	3 (2)	1 (1)	78(52)	99(67)	81(54)	100(68)
	4 級	11(8)	16(14)	66(54)	71(59)	77(62)	87(73)
	5 級	45(29)	31(23)	37(31)	33(30)	82(60)	64(53)
	計	59(39)	49(39)	220(154)	253(180)	279(193)	302(219)
	【中学校 A L T ・ 小学校外国語活動社会人活用：5,038 千円】 小中学校 8 校全てに指導助手（地域の社会人活用）及び A L T を 7 名配置						
検 証	英語力向上プロジェクト事業では、玉川大学学生による授業交流を行い、子どもたちの英語への興味とコミュニケーション能力の育成を図った。また、希望した教員は玉川大学で行われる講義等を視察し、良い刺激を受けていた。 英語検定受検推進事業は、英語検定を通じて英語力を伸ばす一助となった。受験者数は上位級の受験が増加傾向にあり、研鑽意欲の高まりが見受けられる。 中学校 A L T の配置では、専門性を活かした指導の充実を進めた。						
今後の課題 方 向 性	英語教育の充実とグローバルな視点を持つ子どもの育成を進めたい。英語検定受検推進事業は、受験者数が昨年より増加しており継続的に事業を推進する。						
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している		A 一定の成果を出している				
	B やや成果が低い		C 成果が低い				
評価に対する コ メ ン ト	グローバルな人材の育成を目指し、英語力向上の取組について、A L T の更なる活用など、今後も一層の充実を目指したい。						

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組2 未来について思考する取組		
	◇自分の将来や地域の未来について思考する素地を養います	○夢を思い描き、自分の生き方や下田の未来について考え、アクションを起こします	
事 業 等	未来の下田創造プロジェクト 小学校在り方検討会議	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【未来の下田創造プロジェクト】 ・第22回 令和6年8月1日(木) 下田中学校 音楽室 『通う子供も、働く大人も、通わせる保護者も、地域も、誰もがワクワクする ～未来の下田を担う35歳の地元住民を育てる～夢の小学校を創ってみた!』 ・第23回 令和6年10月4日(金) 道の駅開国下田みなと 会議室3 『〇〇小学校の自慢マップを活用したワクワクする小学校の企画書づくり』 【小学校在り方検討会議】 ・第1回 令和7年2月18日(火) 下田中学校 メディ棟2階 現状説明（児童数推計、複式解消等の現状説明、その他取組） 意見交換（課題点心配なこと、魅力化のための意見）		
検 証	未来の下田創造プロジェクトは、「未来の地域を担う人材を育成する」という視点に立ち、小中高教職員、地域、行政代表が集い、協議検討するため、下田市立学校統合準備委員会の下部組織の部会の一つとして、平成30年7月に設置された。令和5年度末までに21回の会議を重ね、「未来の地域を担う人材を育成する」ために整理した12のキーワードを用いて、立場の異なる者同士がディスカッションを通じて地域づくりを担う人材を育成する新たなアイデアの創出を図っている。令和6年度は2回の会議を開催した。 小学校在り方検討会議は、下田市立小学校の在り方に係る課題についての意見を聴取することを目的とし、学校長、PTA会長、地域代表の方々と市内小学校の今後の在り方について意見交換を行った。		
今後の課題 方 向 性	下田市グローバルCITYプロジェクトの取組の一つとして進めるとともに、未来の下田を担う人材を育成する新しい学校づくりを目指して議論し、少人数化が進む小学校の在り方につなげていきたい。また、保育所・認定こども園も含めた小・中・高の教職員の連携による教育プログラムの検討や教育環境改善に向けた検討を行いたい。 小学校の在り方検討会議では、次年度以降も検討を重ね、市内小学校の今後の在り方について提言をまとめたい。		
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	A 一定の成果を出している C 成果が低い	
評価に対する コ メ ン ト	少人数化が進む中、下田らしい小学校の在り方につながる提案及び小・中・高、地域、行政との連携により、新たな動き、取組が生まれるよう期待したい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組2 未来について思考する取組		
	◇自分の将来や地域の未来について思考する素地を養います	○夢を思い描き、自分の生き方や下田の未来について考え、アクションを起こします	
事 業 等	青少年活動推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	【二十歳の集い(旧成人式)】 開催日：令和7年1月12日(日) 会 場：下田市民文化会館 大ホール 対象者：158人(男性90人、女性68人) 参加者：137人(男性81人、女性56人) 内容等：オープニング(下田太鼓伝統保存会) 国歌斉聴、開式、式辞、二十歳の宣言、祝辞、二十歳の誓い 恩師メッセージ(スペシャルムービー)、閉式		
検 証	二十歳を迎えた参加者が、総合司会を行ったほか、「二十歳の宣言」や「二十歳の誓い」を述べる等、積極的に式に参加した。 「二十歳の誓い」では、参加者が二十歳を迎えての決意と抱負についてスピーチを行った。 出席できなかった参加予定者や家族のために、式典の模様をYouTubeでも配信(限定配信)した。 3年ぶりの市民文化会館での開催となったが、大きなトラブルもなく、式典を滞りなく進行することができた。		
今 後 の 課 題 方 向 性	引き続き、対象者が主体性を持って参加できる式典を目指していく。		
教 育 委 員 会 評 価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> S 確実な成果を出している B やや成果が低い </div> <div> A 一定の成果を出している C 成果が低い </div> </div>		
評価に対する コ メ ン ト	「二十歳の集い」として、対象者の意向も把握しながら式の内容を検討したい。 二十歳を迎える成年が改めて大人としての責任を自覚できるよう、地域全体で門出をお祝いする式を実施していきたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組2 未来について思考する取組		
	◇自分の将来や地域の未来について思考する素地を養います	○下田内外の職場や働く人の生き方から学びます	
事 業 等	地域人材活用 総合的な学習の時間	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【総合的な学習の時間等における地域の人材活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元農家と連携した農業体験 (稲梓小、大賀茂小：稲作体験、朝日小：苺収穫・販売体験 他) ・地域の魅力を知り、伝える学習 ※ジオ、史跡等 (下田小、大賀茂小：ジオ学習、白浜小：下田歴史学習 他) ・地元漁業者に指導を受けるひもの作り体験 (浜崎小、朝日小：ひもの作り体験) ・地元インストラクターと連携したアクティビティ体験 (白浜小：サーフィン教室、稲生沢小：シーカヤック体験等) ・コミュニティスクール活動と連携した協働活動 (下田中学校：職業講話、キャリア座談会) 				
検 証	<p>地域と協働で学校運営を行う「コミュニティスクール」の取組は、令和5年度に下田中学校で運用をスタートし、令和6年度には市内7小学校に展開した。</p> <p>小中学校合わせて42名の方々を学校運営協議会委員に委嘱し、学校と連携しながら、主に総合的な学習の時間の充実に取り組んでいただいた。</p> <p>自分の住む地域の未来を考えるに当たり、まずは地域の良さを知ることが大切である。総合学習を通じて、自分の住む地域の魅力を再確認してもらうとともに、地域で活躍する様々な分野の人材と交流することで、地域や自分の未来について考える学習につなげていくことができた。</p> <p>この学習を通じて、「地域貢献」という考え方に触れることができ、子どもたちにとって貴重な経験となった。</p>				
今 後 の 課 題 方 向 性	<p>少子化や教職員の減少等、多くの課題を抱える教育環境において、将来にわたり持続可能な体制を支援するために、学校と地域を結びつけるコミュニティ・スクールでの活動を推進していく。経験豊かな地域の方々に学校運営協議会委員として参加いただき、より活発な活動を目指していきたい。</p>				
教 育 委 員 会 評 価	<table border="1"> <tr> <td>S 確実な成果を出している</td> <td>A 一定の成果を出している</td> </tr> <tr> <td>B やや成果が低い</td> <td>C 成果が低い</td> </tr> </table>	S 確実な成果を出している	A 一定の成果を出している	B やや成果が低い	C 成果が低い
S 確実な成果を出している	A 一定の成果を出している				
B やや成果が低い	C 成果が低い				
評価に対する コ メ ン ト	<p>地域の特色や地域人材との交流の中で学ぶことは、義務教育段階において、最も重要なものの一つであるため、コミュニティ・スクールの活動、取組にも期待したい。</p>				

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事 業 等	公立保育所・認定こども園・民間保育所事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【公立保育所・認定こども園の管理運営事業】							
	(入所児童数 4/1)	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
	下田保育所	3人	8人	11人	12人	7人	14人	55人
	認定こども園	3人	10人	16人	30人	34人	33人	126人
	計	6人	18人	27人	42人	41人	47人	181人
	利用者負担金 11,822千円（収入未済額 80千円、不納欠損額 3千円）							
	【民間保育所事業】							
多様な保育推進事業補助金				8,881千円（特財 3,108千円）				
待機児童解消特別対策事業費補助金				1,560千円（特財 726千円）				
民間保育所給食費補助金				2,543千円				
民間保育所建設費償還事業補助金				2,100千円				
保育所運営費				181,236千円（特財 132,509千円）				
利用者負担金 5,226千円（収入未済額 111千円、不納欠損額 825千円）								
検 証	公立保育所1園と民間保育所1園、公立認定こども園1園と民間認定こども園1園の4施設で保育を実施した。							
	公立保育所については、施設や設備の老朽化が進行する中で、入所児童の保育環境を維持するため、施設等の管理に努めた。また、ICTシステム「コドモン」導入により児童の安全面の確保に努め、保育所と保護者のやりとりを密に行った。							
今後の課題 方 向 性	民間保育所については、運営費の支出をするとともに各種補助金の交付を行い、適正な運営体制の確保に努めた。							
	安全安心かつ良質な幼児教育・保育環境を維持するため、適切な施設の維持管理及び保育士の確保に努める。また、未就学児の人口減少、災害時対応等を鑑み、下田保育所と下田認定こども園の在り方について検討する。							
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している				A 一定の成果を出している			
	B やや成果が低い				C 成果が低い			
評価に対する コ メ ン ト	保護者や地域と連携し、適切な運営をすることができた。今後も引き続き、幼児教育・保育の充実に努めたい。また、多様化する保育ニーズへの対応を検討するとともに、下田保育所の廃止、下田認定こども園への統合について検討し、再編を進めていきたい。							

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事 業 等	放課後児童対策事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	【放課後児童クラブ入室延べ児童数】 (単位：人)											
	区 分	1年生		2年生		3年生		4年生以上		合 計		
		通年	長期休み	通年	長期休み	通年	長期休み	通年	長期休み	通年	月平均	長期休み
	下田小学校	174	4	210	14	87	2	300	10	771	64.3	30
	稲生沢小学校	159	3	69	2	95	7	55	7	378	31.5	19
	朝日公民館	151	0	60	0	56	0	157	0	424	35.4	0
	浜崎小学校	36	0	63	7	53	2	15	5	167	13.9	14
	稲梓小学校	40	1	48	0	36	0	12	8	136	11.3	9
	白浜小学校	29	9	27	7	36	0	20	2	112	9.3	18
	合 計	589	17	477	30	363	11	559	32	1,988	165.7	90
検 証	開 設 日：月曜日から土曜日まで（浜崎小・稲梓小・白浜小は月曜日から金曜日） 開設時間：（平日）授業終了後から午後5時30分まで 開設時間：（土曜日、長期休校日）午前8時30分から午後5時30分まで											
	保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校の児童に対し適切な遊び・生活の場を提供し、その健全な育成を図るため、「放課後児童クラブ」を開設している。 下田小学校、稲生沢小学校、朝日地区（朝日公民館）、浜崎小学校、稲梓小学校及び白浜小学校の6か所での保育を実施した。 通年の登録児童数は、全クラブで月平均約166人、春・夏・冬季の長期休み期間には、通年登録の児童のほか延べ90人の登録があった。											
今 後 の 課 題 方 向 性	全小学校区で放課後児童クラブの整備は完了したが、朝日公民館で実施している朝日地区放課後児童クラブについて、朝日小学校の空調整備工事等を行い、朝日小学校への移転を進める。											
教 育 委 員 会 評 価	S 確実な成果を出している A 一定の成果を出している B やや成果が低い C 成果が低い											
評価に対するコメント	引き続き放課後児童クラブの適切な運営により保育環境を充実させ、子どもたちの居場所づくり及び子育て支援に努めたい。											

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事 業 等	地域子育て支援センター運営事業 ファミリーサポートセンター事業 子ども・子育て支援事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【地域子育て支援センター運営事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・職員1人・会計年度任用職員2人体制、日数240日、利用人員3,524人・交流の場の提供（開放）、子育て相談30件、支援センター通信の発行、講習等の実施10回、参加者167人（保健師講話、歯のお話、食育講座他）、親子体験事業59回、参加者1,662人（体育館で遊ぼう、親子体操教室他）、定例事業96回、参加者1,109人（誕生会、発育測定等） <p>【ファミリーサポートセンター事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・まかせて会員登録31人、お願い会員登録48人、利用実績13人 92件 <p>【病児保育事業、実費徴収に伴う補足給付事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・年間利用人員178人、病児保育事業補助金7,585千円（特財7,162千円）		
検証	<p>子育て支援センターでは、親子の交流の場の提供、各種講座の開催、子育て相談等を実施し、在宅で子育てする保護者の孤立化、育児不安の解消を図り、地域の子育て支援の核として事業を推進した。また、土曜日（第1・第3）の開所を実施し、平日は仕事で利用できない親子のふれあいの場としても活用された。</p> <p>保護者の就労と育児の両立を支援するため、ファミリーサポートセンターの運営を行った。令和6年度の実績としておねがい会員7人、まかせて会員2人、両方会員5人の新規登録があり、13人の会員から延べ92件の利用があった。</p> <p>その他、病気のために集団保育が困難な児童を一時的に預かる病児保育事業に対し、下田メディカルセンター（かるがも保育所）に補助金を交付し、施策の充実を図った。</p>		
今後の課題 方向性	第3期子ども・子育て支援事業計画に基づき、安心して子育てができるよう、各種事業の充実により子育て世帯のサポートを図る。		
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	<div>A 一定の成果を出している</div> <div>C 成果が低い</div>	
評価に対する コメント	多様化する子育て世帯のニーズへの対応を検討し、子育て支援の更なる充実を図っていきたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事 業 等	子ども・子育て会議	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	子ども・子育て会議は、子ども・子育て支援法に基づき設置され、子ども・子育て支援事業計画に関するもののほか、子育て支援施策の検討、実施状況について審議するものであり、令和6年度においては5回開催した。		
	開催日	審 議 内 容	
	8月8日	・第3期下田市子ども・子育て支援事業計画策定について ・下田市の現状と課題 ・ニーズ調査等の報告	
	10月9日	・下田市子育てしやすい環境づくりを進めるためのアンケート調査（その他・自由意見）について ・第3期下田市子ども・子育て支援事業計画の計画素案について ・第3期下田市子ども・子育て支援事業の量の見込みについて	
	11月29日	・第3期下田市子ども・子育て支援事業計画の計画素案について	
	12月18日	・第3期下田市子ども・子育て支援事業計画の計画素案への意見について ・第3期下田市子ども・子育て支援事業計画の計画素案について	
	2月27日	・第3期下田市子ども・子育て支援事業計画（案）に対するパブリック・コメントの実施結果について ・第3期下田市子ども・子育て支援事業計画の最終案について ・下田市放課後児童健全育成事業（下田市放課後児童クラブ運営事業）の一部見直しについて	
検 証	令和7年度から令和11年度までの計画期間である「第3期下田市子ども・子育て支援事業計画」を策定するため、審議・協議を行った。		
今後の課題 方向性	「第3期下田市子ども・子育て支援事業計画」の進捗管理を行うとともに、多様化する子育てニーズを把握し、少子化が進む中での対応を検討する。また、未就学児の人口減少、災害時対応等を鑑み、下田保育所と下田認定こども園の在り方についても検討し、子ども子育て会議に諮問する。		
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	<div>A 一定の成果を出している</div> <div>C 成果が低い</div>	
評価に対する コメント	市の子育て支援の充実に向け、課題や必要量を見極め、幅広く子育て支援施策を検討、検証することが期待される。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事業等	児童生徒適応指導事業 特別支援教育体制推進事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【支援員等の効果的な配置：会計年度任用職員報酬 30,898 千円】</p> <ul style="list-style-type: none">・特別支援教育支援員 24 人 <p>【市巡回相談等の実施：謝礼 677 千円】</p> <ul style="list-style-type: none">・特別支援教育相談員（臨床心理士）による巡回相談（年 22 回実施）・市就学支援委員会専門部会による幼保こども園の訪問・特別支援教育相談員（臨床心理士）によるWISCIV検査（年 16 名実施） <p>【幼児ことばの教室及び適応指導教室の運営：会計年度任用職員報酬 2,932 千円】</p> <ul style="list-style-type: none">・幼児ことばの教室指導員 1 人、適応指導教室指導員 3 人 <p>【特別支援教育就学奨励費：563千円】</p> <ul style="list-style-type: none">・特別支援学級に通う児童生徒に対する扶助費		
検 証	<p>合理的な配慮が必要な児童生徒への対応や学習活動の充実等、子ども一人ひとりの思いや保護者の願いに寄り添った教育活動に取り組んだ。各校、合理的配慮が必要な児童生徒が増加傾向にあり、個別最適化が叫ばれる中、学校としても対応に苦慮している実情から効果的な支援を進める上では、特別支援教育支援員の充実が必須である。また、特別支援教育相談員（臨床心理士）を中心とした巡回相談を年22回実施し、発達に課題をもつ幼児・児童・生徒への支援に取り組むと共に、発達検査（WISCIV）等を実施することで、学齢児及び新学齢児保護者への就学相談を充実させることができた。</p> <p>幼児ことばの教室では、保育所・こども園や市民保健課健康づくり係、福祉事務所等と連携しながら該当保護者に助言し、就学前に適切な支援がなされるよう努めた。適応指導教室では、指導員 3 人を配置し、不登校傾向にある児童生徒に対して、それぞれの課題に応じた支援を行っている。</p> <p>なお、通級教室（小中学校で合わせて 3 学級）及び特別支援学級（小中学校合わせて 4 学級）の開設により、市の特別支援教育体制が整備されている。</p>		
今後の課題 方 向 性	特別支援教育支援員の必要性は年々高まっており、各校の実態を把握した上で適切な配置を進め、きめ細かな支援体制の充実を図っていく。		
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	<div>A 一定の成果を出している</div> <div>C 成果が低い</div>	
評価に対する コ メ ン ト	今後もさらに需要が高まることが予想される特別支援教育は、支援員等の適切な配置や効果的な支援の実現及び特別支援の確立を進めたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事業等	児童・生徒援護事業	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【要保護児童及び準要保護児童への支援：準要保護児童就学援助費 1,061千円】 ・要保護児童3人、準要保護児童16人 【要保護生徒及び準要保護生徒への支援：準要保護生徒就学援助費 1,297千円】 ・要保護生徒2人、準要保護生徒10人 【特別支援教育への支援：特別支援教育就学奨励費 563千円】 ・児童10人、生徒6人		
検証	要保護及び準要保護児童・生徒援助に関して、生活保護を必要とする世帯又は生活保護に準じた保護が必要な世帯の児童・生徒に対し、義務教育を円滑に実施することができるよう、学用品や修学旅行費など一定の援助を行い、保護者の経済的な負担の軽減を図った。他市からの転入、離婚、傷病等で収入が減少した家庭からの新規申請があり、年度途中新規認定者は3名となった。また、家庭環境の変化により就学援助の取消しがあり、年度途中の要保護認定取消者は1名、準要保護認定取消者は1名となった。令和6年度末の認定者数は、前年度に対して1名増となった。 経済的に困窮している家庭には、学校から保護者に制度の案内をし、就学援助制度の周知に努めた。 特別支援教育就学奨励費に関して、小中学校の特別支援学級への就学の特殊事情を考慮し、就学する児童・生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、その負担能力の種類、程度に応じ就学に必要な経費について、一部を補助した。		
今後の課題 方向性	就学援助制度の周知、関係機関等との情報共有を徹底するとともに、学校、民生委員、福祉事務所と連携を図り、就学援助を必要とする児童・生徒の把握に努める。		
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	<div>A 一定の成果を出している</div> <div>C 成果が低い</div>	
評価に対する コメント	物価高騰に鑑み、経済的理由により、教育を受ける環境等に差が生まれることがないよう、支援の更なる充実を図りたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事 業 等	不登校等対策連絡協議会 いじめ防止への対応 生徒指導研修会 人権教育	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【不登校児等対策連絡協議会 年1回】 ・市内児童生徒の不登校についての情報共有及び協議 【生徒指導研修会の開催 年4回】 ・各校の生徒指導担当者による情報交換 ・子ども一人ひとりを理解し、成長を支える生徒指導の推進 ・いじめ・不登校対策連絡協議会を兼ねた情報交換		
検 証	<p>10月24日に生徒指導研修会を兼ね、不登校児童対策連絡協議会を開催した。賀茂児童相談所所長、福祉事務所、主任児童委員、適応教室指導員とともに、市内小中学生の不登校やいじめの状況について情報共有を行った。</p> <p>11月25日に下田市いじめ問題対策連絡協議会及び下田市いじめ問題対策専門委員会合同会議を開催した。令和6年度のいじめ認知件数は小中学校計90件（昨年度122件）となった。早期発見の積み重ねが未然防止につながるため、軽微なものでも認知し学校から報告を挙げる体制を継続したい。なお、令和6年度も、いじめの重大事態及び解決の見通しが立たない深刻な事案はなかった。</p> <p>生徒指導研修会では、改定された生徒指導提要の重点箇所の伝達講習を行い、各校の生徒指導担当が協議を行った。また、各校のいじめ防止基本方針をもちより、気になる箇所について市内8校で共有を図った。また、例年通り気になる児童生徒等について情報交換するとともに、「いじめ・自殺問題への適切な対応」という議題で伝達講習も行った。いじめの積極的認知と未然防止・初期対応の重要性について生徒指導担当との共通理解を図った。</p>		
今後の課題 方 向 性	特別な支援を必要とする児童生徒が関与する事例が増えている傾向にあるため、特別な支援を必要とする児童生徒の理解や的確な支援について理解を深めていく必要がある。		
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	<div>A 一定の成果を出している</div> <div>C 成果が低い</div>	
評価に対する コ メ ン ト	軽微なものでも早期に認知し、重大事態を招かないよう、初期対応の重要性について理解を図ってもらうとともに、教職員の「気付き」について、意識を高めてもらいたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事 業 等	学校公開・学校評価	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【学校公開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより等による自校の教育活動についての発信 ・積極的な学校行事の公開や一日参観等の実施 <p>【学校評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者を対象とした学校生活アンケートの実施 ・学校生活アンケートの結果をもとにPDCAサイクルを機能させた教育活動の改善 ・学校自己評価及び学校評議員等による学校関係者評価の実施
検 証	<p>学校行事や参観会等、学校を保護者や地域に公開することができた。特にグローバルCITYプロジェクトによる体験活動は充実しており、豊かな自然や地域人材を活かした活動を計画的に実施することができた。学校だより等で子どもの様子や学校の現状、教育活動のねらい等を発信し、地域との連携に努めることにより、学校の教育活動に協力したいという地域の思いは各校で見られ、それぞれの学校で地域の教育力を生かした活動につながっている。また、コミュニティ・スクールが全小中学校で導入され、各校の特色を活かして進めることができた。</p> <p>学校評価では、各学校で年2～3回、児童生徒・保護者・教職員を対象とした学校生活アンケートを実施し、その結果を各家庭や地域に還すとともに、全職員で確認し、具体的な解決策を探った。また、アンケートの実施に際しては、ICTを活用する学校が増え、保護者負担の軽減や回答率の向上を図った。こうしたPDCAサイクルを機能させることで、学校教育目標の具現に向けて、取組の改善を図った。また、学校評議員や地域の有識者による学校関係者評価を実施し、教育活動の改善に取り組んだ。</p>
今 後 の 課 題 方 向 性	地域の力をできる限り生かし、地域・家庭との連携・協働により「社会に開かれた教育活動」を実現する体制づくりを進める。
教 育 委 員 会 評 価	<div> S 確実な成果を出している A 一定の成果を出している </div> <div> B やや成果が低い C 成果が低い </div>
評価に対する コ メ ン ト	保護者も地域も自分たちの学校のために協力したいと考えており、教育活動の更なる充実を進めるためにも、PDCAサイクルを機能させ、社会に開かれた学校づくりを推進したい。

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○自分の居場所であると感じられる学校・地域を目指します	
事 業 等	青少年健全育成事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【青少年健全育成の推進】</p> <p>各小学校等における見守り活動、挨拶運動、街頭キャンペーンなどの実施 県主催のネット依存対策ワークショップ等への協力 キャンプ禁止区間に伴うパトロールの実施</p> <p>【青少年健全育成会】</p> <p>青少年健全育成連絡協議会及び青少年補導センターとの合同研修会の開催 ・青少年健全育成啓発用品 25千円、青少年健全育成看板作成 20千円</p> <p>【青少年補導センター】</p> <p>補導活動等の実施や青少年健全育成会との連携事業の実施 公用車による青色防犯パトロールを推進するための実施者講習会の開催 ・受講者 計17名（実施者証の更新：5名、新規取得者：12名） ・青少年補導員報酬 170千円</p>		
検証	<p>青少年補導センターでは、各地域から選出された補導員を委嘱し、地域での声掛け運動を始め、登下校時間などの青色防犯パトロール及び夜間の補導活動や、キャンプ禁止期間における海岸パトロール及び夜間指導などを実施した。</p> <p>また、非行防止キャンペーン等の広報啓発活動や店舗への立入調査等の環境浄化活動を実施し、地域ぐるみの青少年健全育成意識の向上を図った。</p> <p>青少年健全育成会と青少年補導センターによる合同研修会の実施により、地域学校協働活動の仕組みを学び、青少年の健全育成に伴う地域と大人の関わり方について意識向上が図られた。</p>		
今後の課題 方向性	<p>引き続き、各種キャンペーン等の実施を通じ、青少年の非行防止や犯罪被害を防ぐための活動を推進していく。</p> <p>また、各学校に、学校と地域の橋渡し役となる地域学校協働活動推進員を配置し、地域と学校の連携を深めることで、地域全体で子ども達を見守り、育んでいく環境を整備する。</p>		
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	<div>A 一定の成果を出している</div> <div>C 成果が低い</div>	
評価に対する コメント	<p>青少年の健全育成にもつなげるため、地域学校協働活動を推進し、青少年の非行防止や青少年を犯罪被害から守るための活動へ広げていきたい。</p> <p>また、SNS関連のトラブル等、社会情勢の変化に対応する新たな対策についても引き続き取り組んでいきたい。</p>		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○命を大切にし、安全かつ安心して生活できる環境づくりを目指します	
事 業 等	通学路安全対策事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【通学路安全点検】 ・鍋田、ローソン下田五丁目店ほか 【対策実施箇所】 ・国道135号（白浜小学校入り口付近）：カラー舗装 ・県道須崎柿崎線（山田屋付近）：落石撤去 ・市道敷根1号線（ファミリーマート付近）落石、支障木撤去		
検 証	各校より児童生徒の通学に係る危険箇所を聞き取り、各学校と情報共有を図った。不審者情報等通学路に異常が見られた際には防犯パトロールを実施し、また施設整備としてカラー舗装、区画線（外側線）の引き直しや障害物の撤去を実施した。		
今後の課題 方 向 性	通学路安全対策事業については、自転車通学生徒への安全運転の指導を始め、早朝一斉街頭指導及び青色防犯パトロールをするとともに、学校等から挙げられる危険箇所の把握に努め、緊急性が高い場所などについては、道路管理者等と安全対策を協議し、安全対策を実施する。 また、子供の移動経路安全推進会議を活用し、「下田市子供の移動経路に関する交通安全プログラム 子供の移動経路、通学路等の安全確保に関する取組の方針」に基づくPDCAサイクルの実施により、通学路のより良い環境整備に努める。		
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	<div>A 一定の成果を出している</div> <div>C 成果が低い</div>	
評価に対する コ メ ン ト	引き続き関係機関との連携のもと、小中学校区の通学路安全対策を推進したい。子供の移動経路安全推進会議を活用し、細かな危険箇所まで点検して、更なる通学路の安全を目指したい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○命を大切にし、安全かつ安心して生活できる環境づくりを目指します	
事 業 等	児童・生徒通学費補助事業 中学生自転車安全対策	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【児童・生徒通学費補助事業】</p> <p>○児童通学費補助金：1,457,340円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲梓小18人、白浜小19人、朝日小12人 計49人 <p>路線バス及び市コミュニティバス平日通学定期券の支給</p> <p>○生徒通学費補助金：31,781,898円（令和5年度未払分を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期券補助 対象者252人 <p>路線バス平日通学定期券＋土日用ウィークデー補助券の支給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学費補助 対象者86人 <p>年額14千円＋雨天時路線バス利用回数券の補助</p> <p>【自転車損害賠償保険加入補助金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田中31件 生徒一人当たりの自転車通学者の損害賠償保険加入に係る保険料の1/2又は1千円のいずれか低い方の額 <p>【中学生自転車安全対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく中学校へ自転車で通学する生徒に対する自発光式反射板の配付 		
検 証	<p>児童・生徒の通学補助基準を定めた下田市立小中学校通学費補助金交付要綱により事業を実施している。</p> <p>静岡県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例により、令和元年10月から自転車利用者の保険加入が義務化されたため、当該保険への加入促進を目的として保険加入に係る保険料に対しての補助を行い、保護者の負担軽減を図った。自転車損害賠償保険加入補助金については、利用促進を図るため、対象を世帯から生徒単位に変更するなど補助要件を緩和した。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	<p>通学補助事業となる補助金交付事務を適正に執行するとともに、問題点についても柔軟に対応し、学校及び児童生徒に不都合の無いよう、改善できる点については適宜見直しを行いたい。物価高騰の影響により、定期券等の価格が上昇しているため、保護者の確実な負担軽減を図る。</p>		
教 育 委 員 会 評 価	<p>S 確実な成果を出している A 一定の成果を出している</p> <p>B やや成果が低い C 成果が低い</p>		
評価に対する コ メ ン ト	<p>通学補助は、児童・生徒における通学の安全性が確保されるとともに、保護者の負担軽減につながることから、今後も継続していきたい。</p>		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	取組3 居場所づくりに向けた取組		
	◇安心して自分の資質・能力を発揮し伸ばすことができる環境づくりに取り組みます	○防災教育を通して、命を守るために自ら考え、人のためにも行動できる人を目指します	
事業等	地域と連携した防災・防犯教育	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【地域と連携した防災・防犯教育の推進】 ・学校と地域が連携した防災・防犯教育の実施 ・災害に応じた防災訓練等の見直しと効果的な実施 ・土砂災害や津波を想定した各校の避難経路の確認		
検証	昨年度同様、各校の災害リスクを踏まえて、地域の防災担当者、防災安全課及び賀茂振興局危機管理課と連携した取組を進めるなど、地域の実情に応じた防災教育の充実に努めた。 また、土砂災害、津波、南海トラフ地震等を想定した避難確保計画や学校防災マニュアル等については、令和6年8月8日南海トラフ地震臨時情報【巨大地震注意】の発表以降、各校において再度見直しを行った。災害に応じた避難経路の再検討や避難訓練の在り方を考えるなど、安全かつ安心できる学校づくりを目指した。令和6年度は、県くらし交通安全課主催の体験型防犯講座「あぶトレ！」を稲梓・下田小・朝日小学校において実施し、児童の防犯意識の高揚を図った。		
今後の課題 方向性	土砂災害、津波、東南海トラフ地震等、あらゆる災害にも対応した安全かつ安心できる学校づくりを推進するとともに、令和6年1月に発生した能登半島地震の状況を教訓とした計画の点検・見直しを行う。地域の協力が不可欠なソフト的施策の強化及び通学路の登下校時における防犯機能の強化を図る。 近年の異常気象に伴う集中豪雨や短時間による気象変動への対応など、東南海トラフ地震等の大災害時の対応に加えて、身近な災害リスクへの対応も必要とされている。		
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	A 一定の成果を出している C 成果が低い	
評価に対する コメント	災害時にも対応できる安全な学校施設の整備を推進するとともに、児童生徒の安全を守る防災教育の充実、緊急時の体制づくり等、防犯機能の強化及び安全かつ安心できる学校づくりに努めたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組4 資質・能力を育成する取組		
	◇自分や地域の未来を切り拓くことができる資質・能力を伸ばします	○実際の社会や生活で生きて働く知識や技能を身に付けます ○未知の状況にも対応できる、思考力、判断力、表現力などを身に付けます ○学んだことを人生や社会に生かそうとする力を身に付けます	
事 業 等	市指定研究校への支援 研修主任研修の開催 校内研修への支援	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	【市指定研究校への支援】 <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年11月6日(水) 下田市教育研究会指定研究発表(稲生沢小) ・令和6年11月13日(水) 静岡県教育委員会指定研究(下田中) 【市研修主任研修会の開催 年3回】 <ul style="list-style-type: none"> ・各校の校内研修と教育の動向について ・令和の日本型学校教育と全国学力調査のクロス集計について ・年間の研修の振り返りと来年度に向けて 【校内研修への支援】 <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事による各小中学校の訪問と校内研修についての指導・助言
検 証	<p>下田市教育研究会指定研究発表では、稲生沢小学校が2年間にわたる研究実践の成果を発表し、子どもたちが、学びを「自分ごと」とすることで、子どもたちの持っているよさを伸ばし、【心やさしく、たくましい、稲生沢の子】の具現化につながっていくとの思いから、「自分ごととして学びに向かう子の育成」を研究テーマとして設定し、研究を進めた。</p> <p>また、下田中学校では、静岡県指定研究「誰一人取り残さない授業づくり、学級づくり」の最終年となり、県内外から約120名の参加者を迎えて教育研究発表会を行った。下田中学校が積み重ねてきた2年間の研究の成果として、様々な取組を紹介し、多くのご意見をいただくことができ、大変有意義な研究会となった。中でもコミュニティ・スクールを効果的に活用したキャリア教育については、非常に高い評価をいただくことができた。</p>
今 後 の 課 題 方 向 性	引き続き令和の日本型学校教育をベースに個別最適な学びと協働的な学びの確立に迫っていけるように研修を進める。また、教職員として求められる資質、能力の向上を図る観点から、人権教育や特別支援教育への理解も深めていく。
教 育 委 員 会 評 価	<div> <div>S 確実な成果を出している</div> <div>A 一定の成果を出している</div> </div> <div> <div>B やや成果が低い</div> <div>C 成果が低い</div> </div>
評価に対する コ メ ン ト	各校では、熱心に授業改善の取組が進められている。個別最適な授業作りへの一層の探求と、その方策としてのICT活用について検討を進めてもらいたい。

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組4 資質・能力を育成する取組		
	◇自分や地域の未来を切り拓くことができる資質・能力を伸ばします	○実際の社会や生活で生きて働く知識や技能を身に付けます ○未知の状況にも対応できる、思考力、判断力、表現力などを身に付けます ○学んだことを人生や社会に生かそうとする力を身に付けます	
事 業 等	教育資金利子補給事業 奨学奨励費交付事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【教育資金利子補給金交付事業：269千円】 対象者18人に対して利子補給金を交付 【就学奨励金交付事業：900千円】 対象者9人に対して就学奨励金を交付		
検 証	教育資金利子補給金交付事業については、教育の機会均等及び経済的負担の軽減を図り、教育の振興に寄与するため、教育資金の融資を受けた者に対する利子補給金を交付し、保護者の負担軽減を図った。令和6年度は新規申請が2件あり、2件全て認定した。 就学奨励金交付事業については、経済的理由により高等学校等に就学することが困難な者に対し、その経済的負担の軽減を図り、有為な人材の育成及び教育の振興に資することを目的として交付した。下田市奨学生選考委員会において、対象者9人に対し、一人当たり10万円の就学奨励金の交付を決定した。		
今後の課題 方向性	経済的理由により就学が困難な生徒に対し、必要な事業である。今後も学校と連携を取りながら、制度を周知し、情報を共有していく。 また、他市町の事例を参考に新たな保護者の負担軽減につながる支援制度などについても検討していきたい。		
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	A 一定の成果を出している C 成果が低い	
評価に対する コメント	高校、大学への進学を支援する事業であるため、今後も継続して支援を行うとともに、支援を必要とする人への制度の周知について一層の促進を図りたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組4 資質・能力を育成する取組		
	◇自分や地域の未来を切り拓くことができる資質・能力を伸ばします	○実際の社会や生活で生きて働く知識や技能を身に付けます ○未知の状況にも対応できる、思考力、判断力、表現力などを身に付けます ○学んだことを人生や社会に生かそうとする力を身に付けます	
事 業 等	授業づくり支援 初任者研修会の開催	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【授業づくり支援】 <ul style="list-style-type: none">・指導主事による授業参観及び事後研修会・学級づくりや人間関係づくりを基盤とした授業についての指導・助言 【市初任者研修会 年3回】 <ul style="list-style-type: none">・授業参観の基本講義、着目児研修について・学級づくりを基盤とした授業についての指導・助言・先輩授業の参観をきっかけとした、学級集団づくりについての協議		
検 証	<p>各校への授業づくり支援では、指導主事が訪問を行う際、「個別最適な学び」「協働的な学び」を念頭に助言し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに継続して取り組んでいる。</p> <p>初任者研修会では、授業参観の基本について講義を受けた後、先輩の授業を参観することで子供の思いや考えを大切にした導入や授業展開の工夫について先輩教員と賀茂地区初任者6名で協議をした。賀茂地区は小規模校化が進み初任者配置は、1校1人が当たり前の状況となっているため同期のメンバーと協議することは、非常に貴重な機会となっている。また、校種や市町を超えて交流できることが賀茂地区の初任者研修の強みであるため今後も賀茂地域教育振興センターとの連携を深めた研修を行っていきたい。</p>		
今後の課題 方 向 性	引き続き令和の日本型教育のキーワードである個別最適な学びと協働的な学びを充実させるためには、人権教育、特別支援教育の推進が欠かせないため、各種研修において話題にしていく。また、一人ひとりとの対話を大切にしながら、多様な見方・考え方を受け止め、尊重する授業づくりを進める。		
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	<div>A 一定の成果を出している</div> <div>C 成果が低い</div>	
評価に対する コ メ ン ト	様々な家庭環境や生育歴、発達障害等の背景を抱えた子どもたちが通っている小中学校において、子どもたち一人ひとりを的確に捉え、安心して学ぶことができる授業づくりや学級づくりにつなげるとともに、適切な指導・助言ができるように努めたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組5 健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、 健やかな心身と豊かな感性を育みます	○健やかな心身を支える健康な体づくりを目指します	
事 業 等	小中学校児童生徒対外派遣事業補助金 部活動指導員配置事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【小中学校児童生徒対外派遣事業補助金：4,010,625円】 ・中体連、中文連等の大会へ派遣される経費の一部を補助金として支出 【部活動指導員配置事業等】 ・会計年度任用職員報酬 415,200円 ・部活動支援業務委託 956,890円 ・下田中学校 サーフィン部に部活動指導員2名を配置		
検 証	小中学校児童生徒対外派遣事業補助金について、運動部・文化部の各種大会における生徒の対外派遣事業に要する経費を交付し、保護者負担の軽減を図るとともに、生徒たちが部活動に専念できる環境を整えた。 物価高騰の影響により遠征費が高騰しており金額が大幅に増加したが、当補助金により充実した部活動を支える一助となった。 部活動指導員配置事業等については、令和5年度以降、休日部活動の段階的な地域移行を図るとされている中、下田中学校に新たに設置されたサーフィン部に対し、部活動指導員2人を配置した。(公財)下田市振興公社へ部活動支援業務を委託することで事業を実施した。専門的な指導の下、充実した部活動を行い、部活動顧問の多忙化解消にも寄与した。		
今後の課題 方 向 性	小中学校児童生徒対外派遣事業補助金については、物価高騰による交通費等の保護者負担が増大している中、その重要性は増しているものとする。生徒の部活動をより充実したものとするよう今後も支援を継続したい。 部活動指導員については補助制度等を活用しながら、国が推進する学校部活動の地域展開の趣旨に基づき、中学校部活動在り方検討協議会を活用し、下田市の地域特性に応じた部活動の地域連携・展開の検討を進めていく。		
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	A 一定の成果を出している C 成果が低い	
評価に対する コ メ ン ト	部活動の地域連携・地域移行化については、国、県の動向をしっかりと注視し、学校関係機関等との協議を進めるとともに、子どもたちや保護者等への周知も行いながら取り組んでいきたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組5 健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、 健やかな心身と豊かな感性を育みます	○健やかな心身を支える健康な体づくりを目指します	
事 業 等	学校給食管理運営事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>学校給食センターは小中学校8校と県立伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校1校へ給食を提供し、調理配送等業務は㈱レクトンへの業務委託をしている。</p> <p>【債務負担行為(令和6年度まで)】令和3年度 0千円、令和4年度 59,915千円 令和5年度 59,915千円、令和6年度 59,915千円 総額 179,745千円</p> <p>また、令和7年度以降の調理配送等業務については、シダックス大新東ヒューマンサービス㈱と契約を締結した。</p> <p>【債務負担行為(令和6～9年度)】令和6年度 0千円、令和7年度 60,984千円 令和8年度 60,984千円、令和9年度 60,984千円 総額 182,952千円</p> <p>【給食費公会計化】</p> <p>学校給食管理システムにより、市において賦課・徴収業務を行っている。</p> <p>学校等給食費：</p> <p>収入済額 60,438,415 円(幼稚園等給食費除く。)、収入未済額 942,785 円</p> <p>【衛生管理・食育推進】</p> <p>衛生管理の実施、アレルギー児童生徒への対応、地域食材を活用した給食提供</p> <p>【地方創生臨時交付金を活用した給食費の保護者負担額 軽減】</p> <p>小学校：285 円/食のところ 260 円/食とし、25 円/食 軽減</p> <p>中学校：340 円/食のところ 310 円/食とし、30 円/食 軽減</p>		
検 証	<p>調理配送等業務の民間委託に伴い、定期的な業務確認、意見交換、研修会など、徹底した安全管理により、安定した学校給食が提供できた。</p> <p>食物アレルギーの児童生徒を把握し、安全性を最優先にした対応を実施した。</p> <p>児童生徒の給食費のみ引上げ分に物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、保護者負担額の軽減を図った。また、大雨による休校及び給食センターの停電により学校給食を提供できない日が4日あり、保護者による弁当で対応をお願いした。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>食材費高騰の中、栄養価を維持した給食提供のため、給食費改定を検討するとともに、適正な賦課徴収事務の執行として、未収金回収及び児童手当からの徴収を推進する。また、今後は主食取扱業者の状況を踏まえ、給食センター内での炊飯の供給について検討を進める。</p>		
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	A 一定の成果を出している C 成果が低い	
評価に対する コ メ ン ト	<p>給食センターの運営は、徹底した安全管理により良好に行われている。学校給食費の適正な賦課徴収事務の執行とともに、地元食材を活用した給食を通じての食育に尽力していきたい。</p>		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組5 健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、 健やかな心身と豊かな感性を育みます	○健やかな心身を支える健康な体づくりを目指します	
事 業 等	学校体育施設開放事業 スポーツ推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【学校体育施設の開放】		
	市民の体育及びレクリエーションの振興を図るため、市内小学校及び中学校の施設（体育館、グラウンド）を開放し、各スポーツ団体に活動場所を提供した。		
	学校施設の利用状況		
	施設	件数	利用人数
	体育館	1,480 件	21,838 人
	グラウンド	209 件	3,259 人
	【下田市体育協会】		
	・市町対抗駅伝大会下田市選手団派遣業務委託 1,978 千円		
	・下田市スポーツ祭業務委託 317 千円		
	・下田市体育協会補助金(育成強化事業、普及事業他) 490 千円		
	【全国大会等出場費補助金】		
	スポーツ及び文化活動を通じた青少年の健全な育成を図るため、空手 1 名、軟式野球 2 名、陸上競技 1 名の計 4 名の選手に交付した。		
	検 証	学校体育施設の利用は児童から高齢者まで幅広く、多くの利用者の体力の維持向上、技術の向上、健康づくりにつながった。	
		体育協会への補助金や委託事業を通じ、市民のスポーツ環境の充実を図った。	
		静岡県市町対抗駅伝競走大会は、市の部 25 位の結果であった。	
	今後の課題 方向性	体育協会加盟団体の実態を把握した上で、必要な支援を適切に実施する。市のスポーツ施策の担い手である体育協会の活動を活性化させることで、課題となっている部活動の地域移行の解決にもつなげていきたい。	
競技スポーツの振興、スポーツ関係団体の育成を図るため、学校体育施設の適正な維持管理に努める。			
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している	A 一定の成果を出している	
	B やや成果が低い	C 成果が低い	
評価に対する コメント	学校体育施設の開放については、利用者が施設を安全・安心に利用できるよう、学校教育課、各校と連携し、適切な管理運営に努めたい。		
	また、中学校の部活動の地域移行が継続的な課題となっており、市内関係者と連携し、指導者育成や移行に向けた体制整備を進めていきたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組5 健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、 健やかな心身と豊かな感性を育みます	○健やかな心身を支える健康な体づくり を目指します	
事 業 等	下田市民スポーツセンター管理運営事業 吉佐美運動公園管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【下田市民スポーツセンター】 施設利用状況			
	施設 \ 年度	令和6年度		
		件数	利用者数	利用料収入
	体 育 館	1,035	16,042	3,508,800
	会 議 室 1	236	5,015	
	会 議 室 2	259	3,311	
	視 聴 覚 室	532	10,931	
	創 作 実 習 室	334	4,188	
	陶 芸 窯	41	401	
	合 計	2,437	39,888	3,508,800
	・下田市民スポーツセンター指定管理料 21,569千円			
	【吉佐美運動公園】			
施 設 名	令和6年度			使 用 料 収 入
	使用者数			
	市 内	市 外	計	
運 動 広 場	4,450	1,545	5,995	277,830
・吉佐美運動公園管理業務委託 990 千円				
検 証	市民スポーツセンターは、市民の健康増進施設として多機能に利用されている。吉佐美運動公園は、児童から高齢者まで広く使われる施設であり、市民の健康増進、競技技術の向上などにつながっている。			
今後の課題 方向性	今後も適正な維持管理を行い、利用者サービスの向上に努める。			
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い		A 一定の成果を出している C 成果が低い	
評価に対する コメント	今後も、多くの市民が施設を安全安心に利用できるよう、スポーツ振興くじ助成金等を活用し、計画的な整備を実施する。 また、建設課が所管する数根公園も含め、市内スポーツ施設を一体的に捉え、合宿や大会誘致等の有効活用、利用促進について検討していきたい。			

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組5 健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、 健やかな心身と豊かな感性を育みます	○健やかな心身を支える健康な体づくりを目指します	
事 業 等	スポーツ推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	【各種スポーツイベントの開催】		
	開催日	内 容	参加者数
	6月25日（火）	ボッチャ教室（下田市民文化会館小ホール）	26
	10月20日（日）	ボッチャ体験（ふれあい広場）	30
	11月23日（土）	ボッチャ大会（下田中学校体育館）	72
	5月12日（日）	第2回黒船アクアスロン（まどが浜海遊公園）	100
	1月19日（日）	第53回下田・河津間駅伝競走大会 （河津町～下田市）	280 (36チーム)
	8月24日（土） ～ 2月15日（土）	下田市スポーツ祭 実 施 競 技：陸上競技、サッカー、テニス、バレー、 バスケット、軟式野球、水泳、ソフトテニス、ゴルフ、 グラウンドゴルフ、合気道、ビーチバレー	1,385
検 証	<p>下田市スポーツ推進委員会を中心に、市民が広くスポーツを楽しむ機会や健康づくりの場を創出している。ボッチャ教室に加えてボッチャ大会を開催し、子どもからお年寄りまで幅広い参加があった。</p> <p>まどが浜海遊公園を会場にした第2回黒船アクアスロンを開催し、市内外から100名の参加があった。</p> <p>第53回下田・河津間駅伝競走大会は、2年ぶりの開催となったが、エントリー数は微減となった（40チーム⇒36チーム）。今後は、参加チーム数の増加に向けた取組が必要となる。</p> <p>下田市スポーツ祭は、12競技において各種競技会が開催された。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	<p>多世代に渡り健常者・障害者が一緒に競い、楽しむことのできるスポーツとして、ボッチャの普及を今後も推進する。</p> <p>下田・河津間駅伝競走大会及び黒船アクアスロンについては、参加募集に向けたPRを強化し、参加者数増加への取組を図っていく。</p>		
教 育 委 員 会 評 価	<p>S 確実な成果を出している A 一定の成果を出している</p> <p>B やや成果が低い C 成果が低い</p>		
評価に対する コ メ ン ト	各競技団体や、地域おこし協力隊等と連携し、市民が気軽に参加できるスポーツイベントを企画していく。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組5 健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、 健やかな心身と豊かな感性を育みます	○道徳教育や読書活動の充実を図り豊 かな心の育成を目指します	
事 業 等	道徳教育の充実	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【道徳教育の充実】 ・子ども一人ひとりが主体的に「考え、議論する道徳」の授業づくりの推進 ・教育活動全体を通した豊かな心を育む道徳教育の推進		
検 証	<p>子どもたちが自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共により良く生きることを目標に各校で道徳教育の充実を図っていく。各校では、子どもたちの自己肯定感を高め、自他の生命を大切にするなど自他の生き方を尊重できる資質を育んだ。また、豊かな人権感覚をもち、他者を思いやる心を育むなどの道徳教育の充実を推進した。</p> <p>Society5.0 と呼ばれる予測困難な時代に求められる道徳の資質能力は、社会全体が問われていることと同様に答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの児童生徒が自分自身の問題と捉え向き合うことである。そのために、道徳教育においては、「考える道徳」、「議論する道徳」の推進に各校で取り組んだ。</p> <p>学習指導要領の改訂により実施となった「特別の教科道徳」について推進するための、具体的な指導方法や評価に関する情報を提供するとともに、各校で研修に取り組んだ。</p>		
今後の課題 方 向 性	学校教育の場においても多様な価値観に触れ、自分と違う価値観にも誠実に向き合う経験を得るために学校における道徳教育の充実に努める。		
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	<div>A 一定の成果を出している</div> <div>C 成果が低い</div>	
評価に対する コ メ ン ト	道徳教育を推進することは、価値観が多様化する現代社会を生きていく上で必要なことである。子どもたちの道徳性がより一層養われるように、適正な指導を行なうための具体的な取組を進めたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組5 健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、 健やかな心身と豊かな感性を育みます	○道徳教育や読書活動の充実を図り豊 かな心の育成を目指します	
事 業 等	学校司書の配置・新刊図書の購入 学校図書館蔵書管理システム導入の拡大	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【学校司書の配置：会計年度任用職員報酬 3,358 千円】</p> <ul style="list-style-type: none">・学校司書 2 名による市内全小中学校巡回・学校司書及び図書館職員の連携 <p>【新刊図書の購入：図書購入費 2,236 千円】</p> <p>小学校 1,536 千円、中学校 699 千円</p> <ul style="list-style-type: none">・児童生徒の読解力に応じた優良図書の購入、読書感想文推薦図書の購入 <p>【学校図書館管理システム：システム使用料 759 千円】</p> <p>小学校 616 千円、中学校 143 千円</p> <p>【市内小学校図書室の空調整備】</p> <p>市内小学校図書室の空調設備設置による環境改善</p> <p>【市内小中学校・貸出状況実績】</p> <table><tr><td></td><td>稲梓小</td><td>稲生沢小</td><td>白浜小</td><td>浜崎小</td><td>下田小</td><td>大賀茂小</td><td>朝日小</td><td>下田中</td></tr><tr><td>R 6 年度</td><td>2,561</td><td>2,299</td><td>2,526</td><td>3,259</td><td>7,310</td><td>2,066</td><td>2,529</td><td>570</td></tr><tr><td>R 5 年度</td><td>3,635</td><td>1,054</td><td>921</td><td>2,295</td><td>8,042</td><td>2,321</td><td>2,596</td><td>692</td></tr></table>		稲梓小	稲生沢小	白浜小	浜崎小	下田小	大賀茂小	朝日小	下田中	R 6 年度	2,561	2,299	2,526	3,259	7,310	2,066	2,529	570	R 5 年度	3,635	1,054	921	2,295	8,042	2,321	2,596	692
	稲梓小	稲生沢小	白浜小	浜崎小	下田小	大賀茂小	朝日小	下田中																				
R 6 年度	2,561	2,299	2,526	3,259	7,310	2,066	2,529	570																				
R 5 年度	3,635	1,054	921	2,295	8,042	2,321	2,596	692																				
検 証	<p>学校司書 2 人が毎月小中学校を 3 日程度巡回訪問することで、各校の図書室などにおける読書環境の充実に取り組んだ。</p> <p>教員と学校司書及び図書館職員が連携し、児童の読書意欲向上に向け、本の紹介用掲示物作成、市立図書館司書と連携した読み聞かせや朗読による授業支援を行った。また、学校司書の専門性を活かし、児童の読解力に応じた優良図書の紹介、新刊図書購入のアドバイス等、各校の読書活動推進を図った。</p> <p>市内小学校図書室の空調整備を行い、夏期の利用環境を改善した。市内小中学校全校に導入している学校図書館管理システムにより、バーコードによる図書管理の効率化を進め、施設利用環境の更なる充実に努めたい。</p>																											
今後の課題 方向性	市内小中学校における学校司書を 3 人体制とすることを検討する。蔵書管理システムの有効活用、図書購入費の確保等により、利用促進を図っていく。																											
教育委員会 評価	<table><tr><td>S 確実な成果を出している</td><td>A 一定の成果を出している</td></tr><tr><td>B やや成果が低い</td><td>C 成果が低い</td></tr></table>	S 確実な成果を出している	A 一定の成果を出している	B やや成果が低い	C 成果が低い																							
S 確実な成果を出している	A 一定の成果を出している																											
B やや成果が低い	C 成果が低い																											
評価に対する コメント	空調設備の整備により、読書環境の改善につながった。今後は読書環境の更なる充実のため、市内図書館司書との連携により、効率的な管理、児童生徒の利用促進等を進めていきたい。																											

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組 5 健やかな心身を育成する取組		
	◇生涯を通じて充実した人生を送るために、 健やかな心身と豊かな感性を育みます	○道徳教育や読書活動の充実を図り豊 かな心の育成を目指します	
事 業 等	図書館管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【図書館の貸出状況】 ※開館日以外は延べ数						
	開館日数		貸出人数		貸出冊数		登録者数
	269日		7,714人		39,749冊		11,762人
	【蔵書の状況】						
	購入図書		寄贈図書		廃棄図書		総数
	1,901冊		266冊		2,774冊		101,117冊
	【移動図書館車の導入（三代目てんとうむし号）】						
	数量	種別	総排気量	乗車定員	積載量	取得金額	コミュニティ助成金
	1台	軽自動車	650ml	2人	500冊	4,993,960円	4,700,000円
検証	<p>読書活動の推進のため、学校、社会福祉協議会、子育て支援センター等と連携し、おはなし会、移動図書館、「ファーストブック」、「セカンドブック」等を開催した他、読み聞かせボランティアグループ「鮎の詩」との協働により朗読会を開催し、文学への興味関心の向上を図った。</p> <p>三島由紀夫生誕100年記念事業として、市民インタビュー動画制作、文学イベント体験型ブックを実施し、三島由紀夫の文学作品に親しむ機会を提供した。</p> <p>誰でも気軽に本に親しむ機会の創出のため、まちじゅう図書館事業を推進し、新たに2件のまち図書館を認定登録した。(現在6館)</p>						
今後の課題 方向性	<p>子どもの読書活動の推進に向け、乳幼児期の読書機会の充実に取り組んでいく。学校司書と連携しながら学校訪問を継続するとともに、移動図書館車を活用し、館外図書サービスの拡充を図る。</p> <p>身近で本にふれる機会の創出に向け、まちじゅう図書館事業を推進し、新規認定の増加に取り組む。</p> <p>郷土ゆかりの作家を中心に文学の魅力を発信するとともに、図書館利用者の増加に向け、蔵書の整理と館内企画の充実を図る。</p> <p>郷土資料の収集と保存に努め、下田の歴史や文化の継承を図る。</p>						
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している				A 一定の成果を出している		
	B やや成果が低い				C 成果が低い		
評価に対する コメント	インターネットやスマートフォンの普及等により、図書館に求められる機能が大きく変化している。施設設備の制約はあるが、変化を敏感にとらえ、地域に必要とされる図書館を目指して、移転を視野に既存事業の充実と新たな企画に取り組んでいく。						

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	取組6 教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇5つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○人材育成に向けた学びの機会や質を保障する教育予算の拡充	
事業等	小・中学校管理事業	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【小学校管理事業・中学校管理事業】 <ul style="list-style-type: none">・市内小学校空調設備設置工事 63,745 千円 (特別教室)・大賀茂小学校屋根防水工事 13,189 千円・小学校トイレ改修工事 (稲梓・朝日小学校) 3,850 千円※トイレ洋式化率 66.8%・稲生沢小学校校舎雨漏り修繕他 1,419千円・朝日小学校遊具修繕 (砂場) 1,247千円・白浜小学校屋外器具庫屋根防水修繕 1,298千円・下田小学校中央階段室外壁漏水修繕 1,287千円・稲梓小学校通学路法面修繕 1,298千円・白浜小学校職員室空調機修繕 1,287千円・下田中学校遊具修繕 (高鉄棒) 1,279千円・その他小学校施設修繕件数101件 合計12,678千円・その他中学校施設修繕件数 38 件 合計 2,563 千円		
検証	学校施設環境改善交付金を活用し、市内小学校の特別教室 (一部) に空調設備を設置した。浜崎・大賀茂小学校は、全特別教室の空調設備の設置を完了した。 静岡県市町村振興協会の助成を受け、小学校トイレ4組の洋式化改修工事を実施した。 老朽化により不具合の生じている遊具や学校施設に対して修繕工事を実施することにより、施設や機器等の更新をした。		
今後の課題 方向性	環境整備を必要としている小学校施設について、計画的な整備を進め、安全安心で良好な学校環境を確保する。 また、下田市立小学校在り方検討会議を踏まえて、小学校施設の教育環境整備計画の見直しを検討する。		
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	<div>A 一定の成果を出している</div> <div>C 成果が低い</div>	
評価に対する コメント	小中学校からの優先する修繕要望等を尊重しながら十分な協議を重ねて、児童生徒の安全安心を確保するため、教育施設の環境整備を計画的に推進していきたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	取組6 教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇5つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○ICT、ネット環境に関する基盤整備	
事業等	GIGAスクール構想の推進 小・中学校教育振興事業 賀茂地域校務事務共同化協議会	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【賀茂地域校務支援事務共同化事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・賀茂地域校務支援事務共同化事業負担金 7,869,952円 <p>【小学校管理事業、中学校管理事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校電子黒板リース118,800円、中学校電子黒板リース31,680円 <p>【小学校教育振興事業、中学校教育振興事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・教職員用パソコンリース(108台) 1,191,888円(～R6.7)、184,932円(R6.8～)・教育用パソコンリース(182台) 6,910,200円(～R6.12)・中学校教職員用パソコン再リース(62台) 260,172円 <p>【GIGAスクール構想の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校パソコンネットワーク保守業務委託 3,273,600円・小学校GIGAスクールサポーター配置促進業務 3,273,600円・中学校パソコンネットワーク保守業務委託 3,971,660円・中学校GIGAスクールサポーター配置促進業務 1,871,760円・授業支援ソフトロイロノート使用料 1,087,020円・A1ドリル使用料 924,000円(R6.10～) <p>【地域活性化起業人】</p> <p>地域活性化起業人制度を活用した教育DXアドバイザーの受入を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">・学校からの問合せ実績(令和6年7月～令和7年3月)累計165件		
検証	<p>賀茂1市5町で構成する賀茂地域校務支援事務共同化協議会において次期校務支援システムを決定し、システム構築作業及び操作研修を行った。</p> <p>劣化が目立つ電子黒板は新規リースを行い、今後も計画的に入替を進める。児童生徒の学習支援のため、ロイロノート、A1ドリルといった学習支援ソフトを新たに導入した。地域活性化起業人制度を活用した教育DXアドバイザーを受入れ、教育現場のDX推進を図った。</p>		
今後の課題 方向性	全国学力調査のオンライン化を見据え、負荷に耐えうるネットワーク環境の整備を検討する。電子黒板、タブレット端末等については計画的な更新を進める。		
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	A 一定の成果を出している C 成果が低い	
評価に対する コメント	ICT教育環境整備については、国県と方針等にも注視しながら、児童生徒の学習効果が高まるようなサポート体制・ICT機器の充実を図りたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組6 教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇5つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○子どもの安心安全の確保と、多様なニーズに対応するセーフティーネットの構築	
事 業 等	スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置、関係機関との連携	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【「チーム学校」の推進】 ・SC（スクールカウンセラー）及びSSW（スクールソーシャルワーカー）の活用 【関係機関との連携】 ・賀茂児童相談所、福祉事務所、市民保健課等との連携 ・要保護児童対策協議会及び母子連絡会での情報共有 ・下田警察署との連携		
検 証	<p>SC/SSWは、非常勤ではあるが、市内8校を巡回して児童生徒の支援や保護者との面談、学校への助言を行っている。県費による配置のため十分な時間を確保できていない面もあるが、心理的な視点から助言をもらえるため、学校にとっては、貴重な時間となっている。教育委員会としてもSSWと定期的な連絡会を実施し、SC・SSWと交えたケース会議を開催するなど、学校のチーム力向上を図った。また、SSWには、各小中学校の入学説明会等、保護者が多数集まる機会に参加してもらい、虐待等から子どもを守るための情報を共有し、未然に児童生徒の生命や安全を守るよう努めた。</p> <p>コロナ禍より途絶えていたSSWと福祉事務所との連絡会も再開させ、各機関の連携の再構築を図っている。また、家庭の問題を起因とする児童相談所の案件が増えてきているため、児童相談所とも頻繁に連絡をとっている。学校と教委、児相、福祉事務所の連携が今後も非常に重要となる。</p> <p>例年に引き続き、子どもの貧困や発達に課題をもつ児童生徒による問題行動や不登校、学校生活への不適応等が問題になっていることから、市民保健課及び福祉事務所との情報共有に努め、早期からの適切な就学支援を進めることで、子どもの成長を支えてきた。要保護児童対策協議会では、教育委員会担当者や学校・園の代表が情報交換をし、子どもや家庭の実態把握と効果的な対応に取り組んだ。</p>		
今後の課題 方向性	学校だけでは解決が難しい事案が増えていることから、外部機関と連携しながら対応を進めるとともに、SCやSSW等を活用して「チーム学校」として子どもを守る体制を強化する。また、ヤングケアラー等今日的な課題についても関係機関等と連携しながら対応を進める。		
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している B やや成果が低い	A 一定の成果を出している C 成果が低い	
評価に対する コメント	学校教育を取り巻く諸問題を解決していくには、各関係機関との連携は必要不可欠である。開かれた学校づくりを進め、チームとして教育活動に取り組む体制づくりを推進していきたい。		

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組6 教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇5つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○生涯にわたって学び続けることができる施設・環境の整備	
事 業 等	青少年海の家管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【青少年海の家】 施設の利用状況				
	施設名	令和6年度			使用料収入
		使用者数			
		市内	市外	計	
	青少年海の家	228	1,718	1,946	11,130
【管理経費等】 ・管理委託 120 千円、消防設備点検委託 99 千円					
検証	青少年海の家は、施設の耐震性を考慮し、平成 24 年 4 月から宿泊制限を実施している。 令和 6 年度は、21 件 1,946 人が使用した。市外からの教育旅行は 15 件となり、令和 5 年度の 9 件から 6 件増となった。 令和 5 年度に調査を委託で実施。「文化財指定は難しいが、登録有形文化財の対象には成り得る」との報告を受け、下田市文化財保護審議会で協議したが、登録有形文化財の申請には土地所有者の同意が必要であり、敷地内に相続登記されていない民地があることから、申請には至っていない。 今後、施設をどのように管理、活用していくかの検討にあたっては、民地の登記が前提となるため、土地所有者等についての調査を実施した。				
	今後の課題 方 向 性				
教育委員会 評価	S 確実な成果を出している A 一定の成果を出している B やや成果が低い C 成果が低い				
評価に対する コメント	施設の老朽化が進む中、施設自体を今後どのように利活用していくのか、地元区の意見や専門的な意見も踏まえながら市としての方針を検討する。				

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	取組6 教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇5つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○生涯にわたって学び続けることができる施設・環境の整備	
事業等	下田市民文化会館管理運営事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【貸館事業】			
	施設 \ 年度	令和6年度		
		件数	利用者数	利用料収入
	大ホール	126	18,542	8,523,870
	小ホール	118	9,586	
	大会議室	276	11,703	
	小会議室	448	4,369	
	リハーサル室	260	3,599	
	その他	569	5,187	
	計	1,797	52,986	8,523,870
※改修工事のため令和6年11月1日から令和7年3月31日まで小ホール使用禁止				
【文化事業】 指定管理者による文化事業は、コンサートや映画等19事業を開催し、5,183人の入場者となった。				
【改修工事】 市民文化会館改修工事は97,084,400円(財源:過疎債85,800千円 減災交付金10,166千円、一般財源1,119千円)で大ホールI T V設備更新工事、エレベーター改修工事、小ホールスライドドア改修工事、外壁改修工事、小ホール舞台吊物更新工事(債務負担)を実施した。 また、令和5年度からの繰越事業となる小ホール空調設備改修工事は4,619,000円で実施した。				
検 証	改修工事による使用禁止期間の影響もあったが、指定管理者が実施する多彩な自主事業によって、市民に親しまれている。			
	また、ロビーに設置されたワーキングスペースも、新たな利用形態として定着しつつある。 令和4年度から続く計画的な改修計画については、一部繰越はあるものの、順調に進捗している。			
今後の課題 方向性	指定管理者と連携し、施設を適切に維持管理するとともに、文化事業を充実させ、市の文化芸術振興を図る。			
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している	A 一定の成果を出している		
	B やや成果が低い	C 成果が低い		
評価に対する コ メ ン ト	計画的な改修ができるよう予算確保に努め、利用者の安全を確保し、魅力ある施設づくりを努めていきたい。 また、引き続き指定管理者と利用者増加に向けた取組を進めていく。			

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	取組6 教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇5つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○生涯にわたって学び続けることができる施設・環境の整備	
事 業 等	公民館管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【公民館利用状況】			
	公 民 館 名	令和6年度		
		件数	使用者数	使用料収入
	中 央 公 民 館	1,573	16,520	599,920
	稲 生 沢 公 民 館	383	3,987	237,210
	朝 日 公 民 館	502	11,404	49,130
	計	2,458	31,911	886,260
※朝日公民館は朝日地区放課後児童クラブの使用を含む				
検 証	【管理経費等】			
	・委託料（維持管理・その他）2,514 千円			
	・光熱水費 3,061 千円			
	・修繕料 1,969 千円（稲生沢公民館 LED 化、中央公民館屋上防水修繕等）			
	各公民館の生涯学習、コミュニティ活動、各種会議等の使用者は、31,911人であった。 朝日公民館と稲生沢公民館については廃止の方針であるが、廃止後の活用方針が未定であることから、令和7年度も存続することとした。			
今後の課題 方 向 性	方針に沿って統廃合を進めていく。また、存続する中央公民館の在り方については図書館との複合化と併せて検討する。			
教育委員会 評 価	S 確実な成果を出している			

令和7年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（令和6年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	取組6 教育政策推進のための基盤整備に向けた取組		
	◇5つの取組を推進するために教育環境の基盤整備に取り組みます	○生涯にわたって学び続けることができる施設・環境の整備	
事業等	図書館管理運営事業	担当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【未来の下田図書館プロジェクト】</p> <p>図書館の在り方（まちじゅう図書館）実証実験「海辺で本を読もう!!!」</p> <p>日時：令和6年10月26日 会場：まどが浜海遊公園</p> <p>参加者：児童75人 成人75人 計150人</p> <p>地域のこどもたちの習い事の発表会「Sea&rainbow」と同時開催し、会場に4つのゾーンと各テーマに沿った本を用いて読書環境を設け、自由に読書体験してもらい、アンケートを実施した。</p>		
検証	<p>令和5年度開催「大横町通に図書館がやってくる!」に引き続き、令和6年度は「海辺で本を読もう!!!」を開催し、図書館の在り方について、課題や可能性を検討した。</p> <p>図書館外で図書にふれてもらう機会・環境を創出し、まちじゅう図書館のコンセプトである「まちじゅうで本にふれられる環境」・「まち全体が図書館となる仕組み（中核的拠点と小さな拠点）」の一環として、読書体験をしてもらうことができた。また、アンケートにより、新たなまち図書館の場所や新しい図書館に欲しいもの等について意見やアイデアを収集することができた。</p>		
今後の課題 方向性	<p>アンケートで得たアイデアを、まちじゅう図書館の拡充や図書館再整備に活かしていく。</p> <p>継続的に、ワークショップやイベント等を実施し、図書館の在り方、持続可能な施設運営、市民サービスなどの考え方について、市民を交えて検討を続けていく。</p>		
教育委員会 評価	<p>S 確実な成果を出している A 一定の成果を出している</p> <p>B やや成果が低い C 成果が低い</p>		
評価に対する コメント	<p>利用者と職員の安全性、図書館の機能性、利便性を確保し、持続可能な運営を目指し、少しでも早く新図書館の整備に取り組めるよう、図書館整備の検討を進めていく。</p>		

6 有識者委員会

下田市教育委員会の点検・評価に対する学識経験者等による知見の活用については、令和7年11月27日に下田市教育委員会の点検評価に関する有識者委員会を開催しました。

(敬称略)

役 職	氏 名	所 属
委 員 長	原 和 秀	学校関係者(元学校長)
副 委 員 長	猪 ノ 原 克 巳	学校関係者(元学校長)
委 員	佐 野 晃 一	学識経験者(公認会計士)
委 員	進 士 葉 子	学識経験者(民生委員)

7 有識者委員会の意見

下田市教育委員会の令和6年度実績事業については、令和3年3月に策定された第二次下田市教育大綱の6つの取組に基づき、教育委員会が内部評価を行った39事業に対して点検評価を実施しました。

評価対象の39事業中、S「確実な成果を出している」と評価された事業が5事業、A「一定の成果を出している」と評価された事業が30事業、B「やや成果が低い」と評価された事業が4事業、C「成果が低い」と評価された事業が0でした。

有識者委員会における点検評価に際しては、教育委員会から提出された自己点検・評価シート、令和6年度主要な施策の成果等の資料を基に、事務局からの説明、教育委員からの補足説明を受け、質疑を行いました。

「体験プログラム事業」は、「下田の豊かな自然、歴史、文化を感じながら下田を好きになる取組」として、毎年地域の特性を活かした様々な体験が実施されており、児童生徒一人ひとりに豊かな感性を育むとともに郷土への理解を深める機会が提供されているものとし評価を「S」としました。

「青少年活動推進事業」については、「二十歳の集い」に対象者158名中137名が参加する等、積極的な参加が見受けられたこと等から評価を「S」としました。今後は成人を迎えた下田出身者のUターン促進等の取組についても期待をしています。

「学校司書の配置・新刊図書の購入・学校図書館管理システム導入の拡大」では、学校図書館への空調整備、学校司書による読書環境の充実について高い評価がありました。

一方、青少年海の家管理運営事業については、相続登記されていない敷地内民有地への対応等について堅実な取組が進められている点について評価する一方で、課題解決に向けた見通しが立てられない点等を考慮し、評価を「B」としました。

老朽化する施設の整備等については財政的な課題により難しい側面もありますが、利用者の安全かつ快適な利用のため、計画的な取組の推進を期待します。

今後も点検評価を通じ、課題に真摯に向き合い、学校、地域、市民の声を反映した事業を積極的に展開するとともに、下田市教育大綱に基づき、より効果的な教育行政の推進と教育環境の更なる充実を目指していただくことを願います。

下田市教育大綱に定める6つの取組に対する質疑応答の要旨は、次のとおりです。

【取組1 下田を感じる、味わう、好きになる取組】

○体験プログラム事業 特になし	
○青少年健全育成事業、スポーツ推進事業	
有識者委員	親子漁船釣り教室、東京大学樹芸研究所講座を開催した効果等について知りたい。
教育委員会	釣り体験は毎年好評をいただいている。地域資源である「海」を楽しんでいただく事業として大切にしていきたい。東京大学樹芸研究所講座もカカオから作る過程、食べ物を作るという点で楽しく、好評な体験になっている。
有識者委員	地域起こし協力隊について報償費、委託費が計上されているが、アウトドアスポーツ大会合宿等の誘致も実際に進んでいるのか。
教育委員会	アウトドアスポーツ振興部門の隊員の方が競技団体にコネクションがあり、誘致等を進めてもらった。
有識者委員	地域起こし協力隊は令和6年度をもって任期満了とあるが、今後はどうしていくのか。
教育委員会	スポーツコミッションという新しい官民連携の組織し、誘致活動等は継続して続けられる体制になっている。
有識者委員	地域起こし協力隊の新たな募集はしていないか。
教育委員会	現在スポーツ振興部門で地域起こし協力隊が1名、中学高校の部活動（サッカー）支援や大会等での広報ポスターデザイン等を行っている。
○成人活動推進事業、公民館活動推進事業	
有識者委員	令和5年度に実施した「オリジナルフォトフレーム作り体験教室」「竹の伐採体験」等が無くなった理由は。
教育委員会	人気のある親子和菓子作り教室を令和6年度は2回開催した。同じ教室を2回行うことについて意見のある人もいることから、今後の開催について改めて検討したい。
○芸術文化振興事業 特になし	
○市史編さん事業、芸術文化振興事業	
有識者委員	市史編纂は、ここ数年「早期刊行に努める」とされているが、今回「令和8年度に発行」との説明が（口頭で）あったので、取組が進んでいることを理解できた。しょういん探検隊について「内容の見直しを含めた精査」とあるが、具体的にはどう考えているのか。
教育委員会	昨年度はインフルエンザの時期と重なり参加者が少人数となってしまった。今後、内容、時期、訪問場所を含めて検討したい。
有識者委員	吉田松陰のことは子ども達にもっと知ってもらいたい。そのためにも大人に知ってもらう必要がある。検討をお願いしたい。
○英語力向上推進プロジェクト事業、英語検定受験推進事業、ALT（外国語指導助手）配置	
有識者委員	英語検定受験推進事業は受検者数、合格者数とも増えている。確実な成果（S）を出しているとも言えるのでは。
教育委員会	受検しやすくなったという点は評価しているが、十分な学力を身につけた上で受検してもらいたいという思いもあり、Aとした。

【取組2 未来について思考する取組】

○未来の下田創造プロジェクト、小学校在り方検討会議	
有識者委員	未来の下田創造プロジェクトは令和5年度は1回のみ開催だったが、令和6年度に2回開催した理由は。
教育委員会	これまで20回以上の会議を開催し、その目的は下田中学校統合に向けたものだった。中学校統合が完了したため、令和5年度は1回開催のみだったが、会議の必要性を改めて感じ、令和6年度は2回の開催となった。
有識者委員	小学校在り方検討会議についてどんな検討がなされているか。
教育委員会	学校関係者、地域の代表者、こども園や保育所の関係者の方々に参加いただいている。統合ありきの会議ではなく、小規模校を継続した場合の取組についても様々な意見がでている（合同体験活動、学校間の交流等）。令和7年度に提言を取りまとめる予定。
○青少年活動推進事業	
有識者委員	二十歳の集いは、参加者137人とあるが、対象者は何人か。
教育委員会	対象者は158人。
有識者委員	評価はSで良いと思うが、次年度以降は「今後の課題方向性」の中で、下田へのUターン等に触れてもらうことを期待したい。
○地域人材活用、総合的な学習の時間	
有識者委員	コミュニティスクールの役割や活動についてが、検証の中心となっているが、総合的な学習の中身についての検証でなくてよいのか。
教育委員会	教育委員会としての取組に対する点検評価という観点でいうと、総合学習の内容よりもコミュニティスクール制度の創設、予算化等が主な取組となる。
有識者委員	そうであるなら、点検評価書の枠組、記載の仕方等について、次回以降見直しを検討してほしい。

【取組3 居場所づくりに向けた取組】

○公立保育所・認定こども園・民間保育所事業	
有識者委員	保育所の利用者負担金については不能欠損額が増加している点について確認したい。
教育委員会	滞納者の方々には、納めていただけるようにアプローチをしているが、制度上5年を経過すると不能欠損する決まりがあり、5年経過の案件を不能欠損した結果、今回の金額となった。
有識者委員	収入未済額は毎年増えているか。
教育委員会	年によって異なる。令和6年度は未納は無し。今回増加したのは、5年前の滞納額が比較的多かったためと考えられる。あくまで推測だが、5年前がコロナ等で大変な時期だったことは察することができる。
○放課後児童対策事業	
有識者委員	利用が増えているという点は、評価してよいと思う。利用者からの意見等は把握されているのか。
教育委員会	使い勝手が悪い、連絡がうまくいかなかった等の意見は受けている。ハード面で言えば、現在朝日地区は放課後児童クラブを朝日公民館で運営しているが、外遊びができないこともあり、令和8年度から朝日小学校の教室を使用することとした。その準備として令和7年度は朝日小学校の予定教室に空調整備工事を実施した。

○地域子育て支援センター運営事業、ファミリーサポートセンター事業、子ども・子育て支援事業	
有識者委員	病児保育事業利用者が前年度比で増加している点を確認したい（145人→178人）。
教育委員会	令和3年度は144人、令和4年度は170人と必ずしも増加傾向にあるわけではなく、年度によって状況は異なる。
有識者委員	ファミリーサポートセンター事業も前年度比で増加しているので、評価「S」でも良いと思うが「A」にした理由は。
教育委員会	地域子育て支援センター運営事業、ファミリーサポートセンター事業、子ども・子育て支援事業を包括した取組に対する評価として、全体では「A」と判断した。
○子ども・子育て会議	
有識者委員	令和5年度2回だった会議を令和6年度は5回行っているが、子ども・子育て支援事業計画の検討のためとの理解でよいか。
教育委員会	計画検討のため、多くの会議を行った。
○児童生徒適応指導事業・特別支援教育体制推進事業	
有識者委員	特別支援教育支援員報酬支出額は増加したが支援員数は1名減となっている。
教育委員会	必要性の高まりから支援員は適切な配置を進めていきたいと考えるが、人件費単価も上昇していることから、できる範囲の中での対応としている。
有識者委員	学校によっては支援員が1～2名で、もう少しサポートがあればと思える部分もある。評価は「A」でよいが今後継続して検討してほしい。
○児童・生徒援護事業	
有識者委員	認定方法、場所はどのようにしているのか。
教育委員会	中学校統合により多少やり方が変わった。兄弟姉妹でそれぞれ中学校、小学校にいる場合は小学校に民生委員も呼び、対応している。
○不登校等対策連絡協議会、いじめ防止への対応、生徒指導研修会、人権教育	
有識者委員	重大事態及び深刻な事案が無かった点は良かった。ただし、今後の課題方向性等の記載について、少し整合が取れてないため、記載内容を改めて確認してほしい。
○学校公開・学校評価	
有識者委員	コミュニティスクールの全校導入による地域との連携、教育活動改善の取組等の記載内容を考えると評価「S」でも良いように思われるが。
教育委員会	「学校を開く」ことについて明解な答えが無く、試行錯誤しているため「A」とした。
○青少年健全育成事業	
有識者委員	地域学校協働活動推進員活動が青少年健全育成活動と重複しているようにも見受けられる。事業の内容について検討が必要な時期にきているのではないかと。
教育委員会	混同する部分があることは、他市町との会議でも話題になり、県教委からも意見を受けている。体制の在り方等について、今後定期的な見直し等を考える必要がある。
○通学路安全対策事業	
有識者委員	毎年改善を進められている点は評価すべきだが、まだまだ改善すべき場所、路線等が多いという理解でよいか。
教育委員会	はい。
有識者委員	登下校時にサルに遭遇する等の獣害について今の状況は。
教育委員会	先日もサルの目撃情報等があり、産業振興課が現地確認を行う等、できる範囲で対応してもらっている。このところ全国的にクマ出没の報道が多く、下田市でも関係部署間で協議し、マニュアルの作成等を検討している。

○児童・生徒通学費補助事業、中学生自転車安全対策	
有識者委員	特になし
○地域と連携した防災・防犯教育	
有識者委員	令和6年度8月10日南海トラフ地震臨時情報以降の各学校での見直し内容は。
教育委員会	職員参集の考え方、児童生徒への対応等が学校によってばらつきがあり、マニュアルの再確認をしてもらった。
有識者委員	学校が避難所になる場合、学校、自主防災会、市役所間がうまく連携できない懸念がある。その場合、教育委員会が橋渡しの役割を担う必要があるのでは。
教育委員会	令和7年度に発生したカムチャツカ地震対応でも様々な課題を確認した。今後検討を進めていきたい。

【取組4 資質・能力を育成する取組】

○市指定研究校への支援、研修主任研修の開催、校内研修への支援	
有識者委員	研修事業は何をもって成果とするのか判断が難しい。コメントとして記載されている「ICTの有効活用」と「個別最適な授業づくり」は、必ずしも一致するものではないので、コメントの修正等が必要。
教育委員会	修正します。
○教育資金利子補給事業、奨学奨励費交付事業	
有識者委員	評価の判断が難しいが、必要な人に知ってもらうため、周知の制度の充実をお願いしたい。
○授業づくり支援、初任者研修会の開催	
有識者委員	「市指定研究校への支援、研修主任研修の開催、校内研修への支援」同様、何を成果とするか判断が難しい。第3者が客観的に評価「S」で納得できる指標等が見当たらない。
教育委員会	修正等を検討する。

【取組5 健やかな心身を育成する取組】

○小中学校児童生徒対外派遣事業補助金、部活動指導員配置事業	
有識者委員	中学校統合前に対して、対外派遣補助の基準は変わったか。
教育委員会	遠征費補助については以前に比べ手厚くなっている。
有識者委員	令和6年度は中学校部活動の在り方検討協議会を実施しなかったか。
教育委員会	中学校統合が落ち着いて以降開催できていないが、部活動地域展開の全国的な動きを踏まえて、令和7年度は開催を予定している。
○学校給食管理運営事業	
有識者委員	学校給食について、地方創生臨時交付金等を活用しながら一食当たり小学校20円、中学校30円分を値上げせずに提供しているのは評価すべき。学校給食は残量が一定数あるため分析の上、残量軽減に取り組んでほしい。今後の方向性として、給食センター内での炊飯供給が進めば、混ぜご飯、炊込みご飯等のバリエーションが増える。子ども達が楽しめる学校給食を期待したい。
○学校体育施設開放事業、スポーツ推進事業	
有識者委員	中学校部活動地域移行の解決に向け、どのような考えがあるか。
教育委員会	学校施設利用団体に登録されている有資格者等の人材の把握に努めている。中学校部活動在り方検討協議会は生涯学習課も関わるため、学校教育課、中学校とも連携しながら、検討を進めていきたい。

○下田市民スポーツセンター管理運営事業、吉佐美運動公園管理運営事業	
有識者委員	スポーツセンターは令和6年度に修繕対応していないが修繕が必要な箇所はあるか。
教育委員会	現在確認しているのは管内非常放送設備で、防災設備点検で指摘を受けている。床、コート等の張替についても公社から要望を受けているので、今後計画的に整備を進めたい。
○スポーツ推進事業	
有識者委員	令和5年度に後援事業として実施した「黒船アクアスロン」は、令和6年度になって主催事業に変更したという理解でよいか。
教育委員会	令和5年度は地域おこし協力隊発案のプレ大会として開催し、思った以上の参加者が集まり、評判も良かったことから市の主催事業に切り替えた。
有識者委員	河津下田駅伝はエントリー数が微減となり、参加チーム増加に向けた取組が必要とあるが、どのような対応を検討しているのか。
教育委員会	令和5年度に参加対象地域を伊豆半島全域まで広げた。令和6年度は微減となっているが、参加者の意見を聞き今後の改善につなげていきたい。
○道徳教育の充実	
有識者委員	他の取組にも当てはまる部分があるが、実際に道徳教育を行っているのは学校であるため、教育委員会の評価が難しい。
教育委員会	必要性に応じて道徳授業等に関する研修会の開催等の対応も今後検討していきたい。
○学校司書の配置・新刊図書の購入、学校図書館蔵書管理システム導入	
有識者委員	令和5年度に管理システムを導入、令和6年度には学校図書館内の空調設備を整備したことに対して、評価「S」にしたという理解でよいか。
教育委員会	学校司書を中心に図書室の読書環境も改善した。
有識者委員	評価「S」とする一方で「学校司書3人体制の検討」とあるのは、体制整備が一層の充実につながるということか。
教育委員会	中学校1名、小学校2名の体制で対応できれば、更なる充実が期待できる。
○図書館管理運営事業	
有識者委員	前年度に比べて、記載方法を修正したためかもしれないが、事業が縮小している印象を受ける。前回評価「B」から「A」にした理由は。
教育委員会	移動図書館車の導入等を踏まえ、館外図書館事業の充実に向けた整備を進めた点を評価した。

【取組 6 教育政策推進のための基盤整備に向けた取組】

○小・中学校管理事業	
有識者委員	<p>前回報告書で「下田中学校のトイレ洋式化率 100%」は記載済。今回は記載しなくてよい。</p> <p>毎年多くの修繕に対応していて成果は出している印象だが、施設の老朽化等が進み、まだまだ対応が必要という点から評価は「A」でよい。</p>
○G I G Aスクール構想の推進、小・中学校教育振興事業、賀茂地域校務事務共同化協議会	
有識者委員	<p>令和 6 年度に校務用システム環境構築、令和 7 年度に校務用パソコン入替を行い、特定のパソコンのみが利用可能だったインターネット環境を、各教員の業務パソコンから利用できるようになった点は評価できるが、その接続速度が遅い。先生方もその点については困っている印象がある。</p>
教育委員会	<p>接続回線をもう一段階早いものに切り替えることを検討している。</p>
有識者委員	<p>校務ネットワークは課題があるが、G I G Aネットワークは快適に利用できている印象がある。子ども達はタブレットを驚くほど使いこなしている。</p>
○スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置、関係機関との連携	
有識者委員	<p>定期的な連絡会を開催、各関係機関との連携も、教育委員会が連絡調整し対応等をしているので、報告書で明記した方がよい。評価は「A」でよい。</p>
○青少年海の家管理運営事業	
有識者委員	<p>青少年海の家調査結果については、</p>
教育委員会	<p>文化財としての価値については評価をもらっている。敷地内の一部土地に相続登記されていない民有地があり、地権者対応にかなりの時間を要している。少しずつ前進しているが、相続人数が多く、担当職員のがんばりだけでは難しい案件になっている。</p>
○下田市民文化会館管理運営事業	
有識者委員	<p>振興公社と生涯学習課の関係性も、学校と教育委員会の関係と同様にどこまでを教育委員会の取組として評価するか、判断が難しい。今回はこの内容で構わないが、次年度以降検討してほしい。施設改修は教育委員会が実施主体であり、順調に進捗していると理解し、評価は「A」とする。</p>
○公民館管理運営事業	
特になし	
○図書館管理運営事業	
有識者委員	<p>P40 の取組と区別が難しい。前回記載のあった「まちじゅう図書館事業」は P40 へ移行したという理解で良いか。</p>
教育委員会	<p>内容等を鑑み今回記載箇所を変更した。</p>
有識者委員	<p>前回評価「B」を今回「A」に変更したのは、未来の下田図書館プロジェクトが順調に進行しているという理解か。</p>
教育委員会	<p>現在進行中のワークショップ等で、市民の方々が求めている図書館像が徐々に見えてきたという認識は持っている。</p>
有識者委員	<p>点検評価にあたり、客観的な成果がないと判断が難しい。記載方法若しくは評価について、再度見直しをお願いしたい。</p>

8 下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会設置要綱

平成21年7月27日教育委員会告示第9号

(設置)

第1条 下田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する、事務・事業の管理及び執行の状況についての点検・評価を行うことで、地域の実情と住民ニーズに応じ、より効果的な教育行政の推進に資するとともに、事務・事業の管理及び執行状況についての透明性の確保と市民への説明責任を果たすため、下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施する事務・事業の点検評価に関すること。
- (2) その他委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内で組織する。

- 2 委員は、教育に関する識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 4 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する者をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

- 2 委員長は、必要に応じて会議に委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聞くことができる。
- 3 委員会の会議は、原則として公開とする。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育委員会学校教育課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、公示の日から施行する。
- 2 第3条第3項本文の規定にかかわらず、初回の委員の任期は、平成23年3月31日までとする。

令和7年度(令和6年度実績事業)
下田市教育委員会自己点検・評価報告書

発行日 令和8年1月
発 行 下田市教育委員会
〒415-0024 静岡県下田市四丁目6番16号
TEL 0558-23-3929 FAX 0558-23-5176
E-Mail s-kyoui@city.shimoda.lg.jp